

若年時のキャリア形成が
将来の離職行動・就業形態に与える影響¹

一橋大学 国際・公共政策大学院
公共経済プログラム 修士2年

神谷翔吾

2016年8月

¹ 本稿は一橋大学国際・公共政策大学院公共経済専攻の講義「コンサルティング・プロジェクト」の最終報告書として、受入機関であるリクルートワークス研究所に提出したものである。本稿の内容はすべて筆者の個人的見解であり、受入機関の見解を示すものではない。制作にあたっては、リクルートワークス研究所 辰巳哲子研究員から多大な協力と有益な助言を頂いた。また、担当教員である横山泉先生、山重慎二先生にも多くの助言を頂いた。ここに記して感謝を示したい。本稿に誤植などがあった場合すべて責任は自分にある。

要約

新卒で就職をするも、三年以内といった早期に離職する「早期離職」は、(1)離職する従業員にかけた採用活動費用や OJT(=On the job training)費用が無駄になる、(2)離職した個人の人的資本の蓄積を困難にする、という点から経済に悪影響を与えると考えられる。15 歳から 24 歳の若年層の早期離職は、平成 12 年以降、高止まりを続けた後、減少傾向にあったが、平成 21 年を底として再び増加傾向にあり、前述の経済への悪影響を考慮すると、決して楽観できる状況ではない。厚生労働省等の調査から、これらの「早期離職」の原因として、労働条件や人間関係、仕事そのものとの相性が悪かったことなどが挙げられ、これらの原因そのものが学校教育から生まれる可能性も指摘されていた。

そこで本稿では、中等教育における個人の経験と、その後の仕事における離職行動との関係を、マイクロデータを用いて分析した。その結果、就業体験の経験が、離職は有意に引き下げることはなかったが、正規雇用就職率を有意に引き上げることが明らかとなった。先行研究では高卒者の早期離職は、大卒以上の早期離職と比較して、無職期間が長くなることや、次の職に就いた際に賃金の下落率が大きくなることが示されていた。従って高卒者の正規雇用就職率の向上を通じた早期離職の抑制を図るためにも、職業教育の充実が急がれる。

目次

第1章 序章	pp.4~8
第2章 先行研究・本論文の位置づけ	pp.9~11
第3章 分析	pp.12~30
3.1 データ	pp.12~16
3.2 プロビット分析とその結果	pp.16~22
3.3 傾向スコアマッチングとその結果	pp.22~30
第4章 考察	p.31
参考文献	pp.32~34
調査票	pp.35~

第1章 序章

15歳から24歳の若年層の就業状況、中でも、新卒で就職をするも、三年以内といった早期に離職する「早期離職」の増加が、問題となっている。

厚生労働省の雇用動向調査(2014)によると、若年層の離職率²は19歳以下の男性で37.7%、女性で32.9%、20-24歳の男性で24.2%、女性で29.6%であり、全年齢離職率の15.5%と比較すると相対的に高い。とりわけ、新卒³で就職し、三年以内に離職を行う「早期離職」が、若年層の離職の中の多くを占める。図1は、最終学歴別の早期離職の推移を示したものである。中学校卒、高校卒、短大卒、大卒といずれの学歴においても、就職した者のうち早期離職を行った者の割合は平成12年以降高止まりを続けた後減少傾向にあったが、平成21年を底として再び増加傾向にある。こういった早期離職の増加は、経済に様々な悪影響をもたらす可能性が考えられる。

新規学卒者の早期離職は、中里(2015)でも指摘されているように、以下のような点から経済に悪影響を与えていると考えられる。(1)離職する従業員にかけた採用活動費用やOJT(=On the job training)費用の無駄や、職場のモチベーション低下につながる。(2)離職した個人の人的資本の蓄積を困難にし、結果として個人の生産性を引き下げる。(3)離職後、非正規雇用者として転職する 경우가多く、その後の生産性が低くなる、などである。

まず、早期離職が個人の生産性、および会社の収益率にもたらす悪影響について論じた先行研究を紹介する。日本経済研究センター(2011)では、従業員の早期離職のもたらす悪影響について、早期離職する従業員に費やした採用活動費用とOJT費用が、すべて埋没費用となってしまうことをあげている。また、Becker(1964)とMincer(1974)によって取り上げられた、勤続による仕事への「慣れ」や、勤続中に施される教育投資によって個人の生産性が高まるとされる人的資本理論の観点から見ると、早期離職は人的資本の蓄積を困難にすると考えられる。なぜなら、個人に蓄積される中心的な能力である企業特殊的能力は企業によって異なり、転職後の継続的な企業特殊的能力の蓄積は困難であるため、他企業への転職を行うと、個人の生産性の向上を妨げてしまうと考えられるからだ。人的資本理論については実証分析も進められており、それらからも賃金で換算された生産性の低下を読み取ることが出来る。阿部(1996)では、労働者が離職・転職を行うと、賃金の低下といった産業特殊的人的資本の損失が発生することを実証的に示した。また、萩原(2014)では、新卒入社後、3年以上

² 一年間の離職者数を常用雇用者数で割ったもの。詳しい推計方法は「厚生労働省 雇用動向調査 調査の結果」<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/9-23-1b.html#link01>にある。

³ ここでの「新卒」は教育機関を当該年度中に卒業する者を指す。

継続して最初の会社に勤務してから離職する場合にはその後の賃金に有意な差がないが、3年以内に離職してしまった場合はその後の賃金に負の影響が存在することを示した。白石・藤井・高山(2013)では、新卒で正社員として職についた男性に絞った実証分析を行い、新卒就職後5年以内に離職した個人は、30歳の時点で不安定な雇用形態にある可能性が相対的に高いということを示した。人口減少が進む日本において、個人の生産性の向上の妨害は長期的には日本経済の成長を阻害する可能性がある。

また、労働者に離職されてしまう会社にも悪影響があると考えられる。長島(2007)では、『就職四季報 2007 年度版』(東洋経済新報社)に掲載されている企業⁴を対象に、各企業の大卒の新卒者の三年以内の離職率が企業利益に与える影響を、操作変数法によって分析を行った。長島は分析結果から、『新規大卒者三年以内離職率が高い企業ほど人材育成の効率性が低下していて、これによって企業利益は負の影響を受けていると考えられる』⁵と結論付けている。

これらの先行研究より、早期離職は経済に悪影響をもたらしている可能性があると考えられる。しかし、こういった指摘の一方、早期に離職を行い、その後転職を行うことによってその個人の生産性が増加するという理論もある。それが、Jovanovic(1979b)で紹介されている、ジョブ・マッチング理論である。ある個人が、自分に合わない仕事に就いてしまい、現在の仕事を続けても生産性の上昇が見込まれない場合を想定する。この場合、前述のベッカーの人的資本理論とは違い、労働者は転職によってより自分自身に合った仕事を発見することで、自身の生産性を引き上げることができる。従って、離職・転職によって生産性は上昇すると考えられる。この考え方を理論化したものがジョブ・マッチング理論である。この理論の実証研究として戸田・馬(2004)がある。この論文では、若い内の離職・転職がその後の個人の生産性に及ぼしている影響を、ジョブ・マッチング理論に基づいて分析している。最初に就職したのち、3年以内に離職・転職した場合は賃金率への影響は有意ではないが、5年以内に転職した場合は、有意に賃金率を高めているという結果が得られた。以上の結果から同論文では、働く期間が短く、自身にマッチしているかどうか見極められない状態で離職・転職をするよりも、見極めを十分行える期間働くことで、マッチした職業を発見できるという意味で、ジョブ・マッチング理論が当てはまる可能性が高いとしている。

以上のように、ジョブ・マッチング理論から離職行動を見た際には、むしろ個人の生産性を高める可能性が考えられる。しかし、日本においてジョブ・マ

⁴ 分析対象は、大卒の新卒者の三年以内の離職率を掲示している企業のみとなっている。

⁵ 長島伸太郎(2007)「新規大卒三年以内離職率が企業利益に与える影響に関する研究」東京工業大学 大学院社会理工学研究科・工学部 社会工学専攻・社会工学科 学位論文便概集 2008 No.39.p2 より引用

ッチング理論の研究は少なく、海外においてその研究が盛んである。なぜなら海外では雇用の流動性が高いため若年者の労働移動費用は相対的に低く、離職後、次の職に移りやすいことから、よりジョブ・マッチング理論の当てはまりがよいと考えられているからである。海外においては離職・転職といった行為は、キャリアの中で自身にマッチした職業を選ぶ行為であると理解されている。例えば Bachmann et al(2009)や Oreopoulos et al(2012)では、離職・転職が不景気の中就職活動を行ったことによる不本意な初職状態から脱し、現状の低い賃金水準から好景気時に就職活動を行った世代の賃金水準に並ぶための有効な手段であることを示している。このように海外の研究ではジョブ・マッチング理論の当てはまりがよいことが多くの研究によって示されている。また、Topel and Ward(1992)では、アメリカの若年労働者の離職・転職を分析し、そういったジョブサーチの行為が長期的かつ安定的な雇用を獲得するための過程であることを示した。しかし日本においてはアメリカのようにすぐに次の職業に移れないことが想定される。従ってジョブ・マッチング理論は日本においてはあてはまりが悪く、早期離職によるデメリットの方が、メリットと比較して大きいと考えられるため、本稿では早期離職の要因の追求とその抑制について考えていく。

若年層が早期に離職を行う理由を整理する。厚生労働省「平成 25 年若年者雇用実態調査」では、転職経験を有する、大学や高等学校等に在学していない若年労働者(15-34 歳)を対象としたアンケート調査から、「初めて就職した会社を離職した理由」について回答を得ている。この結果によると、「初めて就職した会社を離職した理由」として「労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった」と回答した割合が 22.2%と最も多く、次いで「人間関係がよくなかった」が 19.6%、「仕事が自分に合わない」が 18.8%であった。

また図 2 は、(株)UFJ 総合研究所「若年者のキャリア形成に関する実態調査」(2004 年厚生労働省委託調査)における結果を掲載しているが、これによると、35 歳以下の求職者は、正社員に比べ学校生活において「就業に関する教育⁶をもっと提供してほしい」としている。

以上から、離職の大きな原因の一つに、職業選択時に自らに合う仕事に就けなかった、あるいは見出せなかったことが考えられる。また、若年層の求職者において、就業に関する教育の充実が求められていることから、教育内容が職業選択や早期離職に影響を与えている可能性が考えられる。

⁶ この調査では「職業に必要な専門的知識・技能など」「社会人としてのマナー」「各職業の内容」「職業の選び方」「労働者の権利等、必要な基礎的情報」「就職活動のノウハウ」「フリーターや無業者のリスク」を職業に関する教育としている。

本論文の構成は以下のとおりである。第2章では、先行研究・本論文の位置づけについてまとめ、第3章では分析モデルや分析データについて説明をし、第4章では定量分析の結果を報告する。

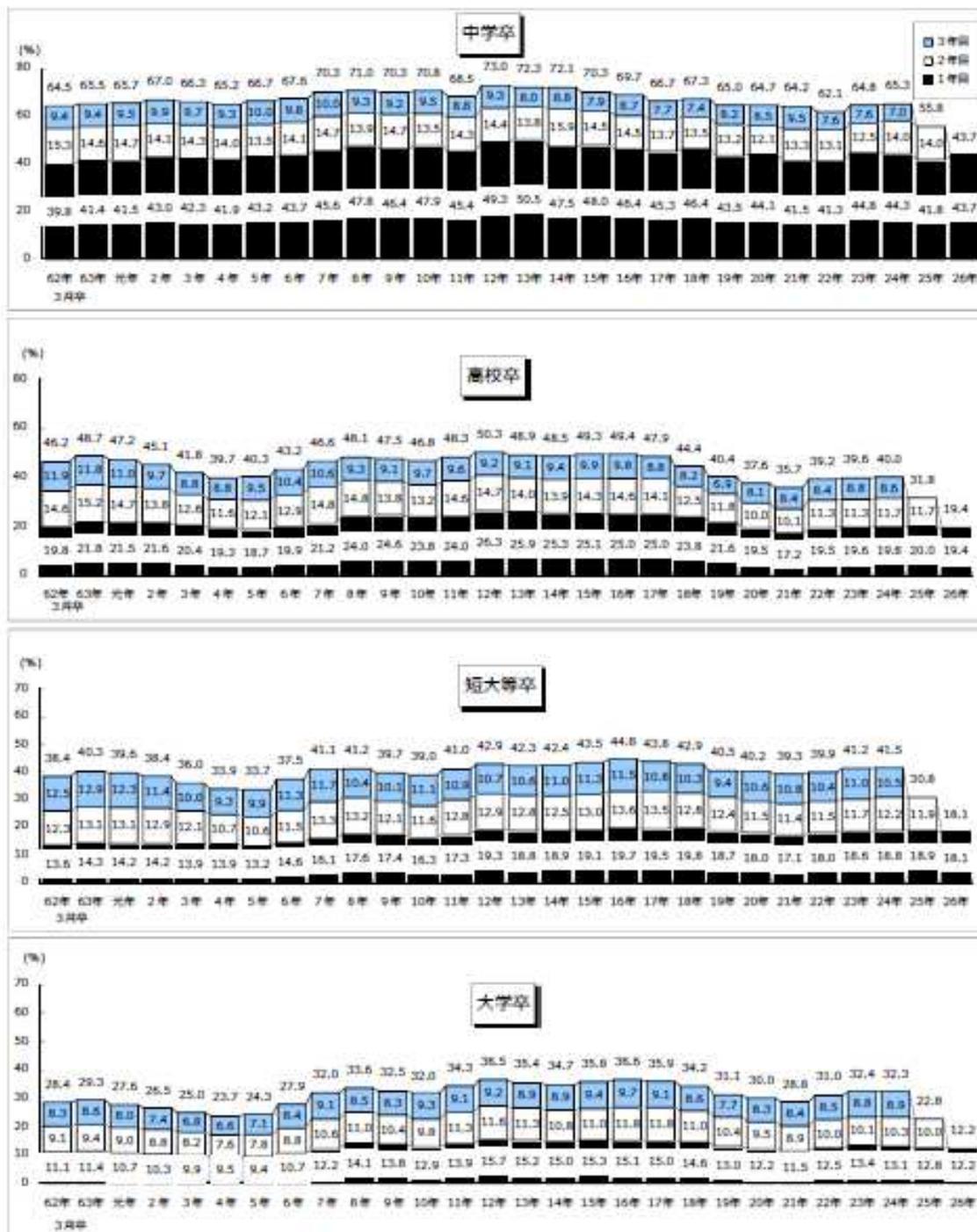


図1 新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移

【出所】厚生労働省「新規学卒者の離職状況に関する資料一覧」より引用

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/01/tp0127-2/24.html>

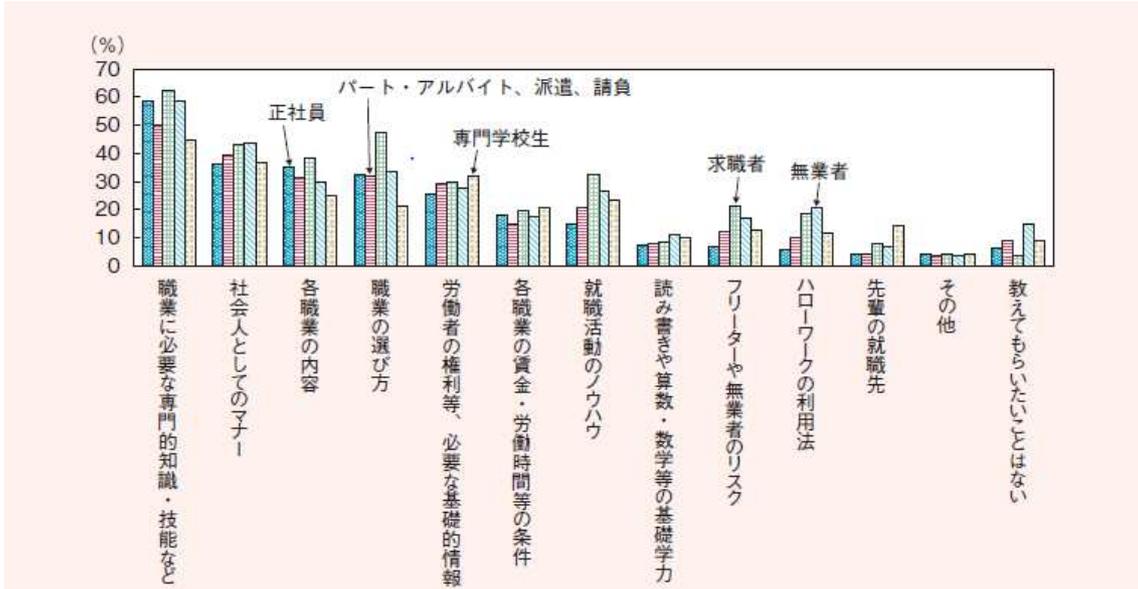


図2 学校生活を通じてもっと教えて欲しかったこと

【出所】厚生労働省(2008)「平成20年版労働経済の分析」

((株)UFJ 総合研究所「若年者のキャリア形成に関する実態調査」(2004年厚生労働省委託調査))

http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/08/dl/02_0002.pdf

第2章 先行研究・本論文の位置づけ

本章では、先行研究の紹介を行い、これらを踏まえたうえで、本稿が取り扱うテーマ等を示す。

国立教育政策研究所(2014)では、公立高校の普通科、農業科、工業科、商業科を卒業して「就職」もしくは「上級学校(大学・短期大学・専門学校等)に進学した後、就職」を経験した者の中で、離職を経験した者に対して、個別面談聴取法⁷による調査を行っている。この調査から、『以下の条件に当てはまる者については、高卒就職者全体の平均からみて一次就職先での在職期間が大幅に短縮される傾向があることが明らかとなった。(中略)進路学習及び進路に関する担任からのアドバイスの双方について、記憶に残っていない(または無回答である)。』⁸ということがわかった。この研究結果から、ある個人が受ける学校教育の内容は、早期離職に影響を及ぼしていると推察できる。野村総合研究所(2013)では、学生及び専業主婦(夫)を除く18～30歳までの若年就業者及び若年無業者を対象に、キャリア教育、マッチング、キャリア・アップに関して、インターネットによるアンケート調査を実施している。この調査では、調査対象者が高等学校在学中に受けた教育のうち、就業に関する9種類の教育⁹をキャリア教育と定義し、この教育への印象の度合いと調査対象者の雇用形態の関係を調べている。この調査結果を掲載した、内閣府「平成25年度年次経済財政報告」には、『調査結果によると、高卒就職者の場合、在学中に「職業人(企業からの派遣講師等)による実践的な授業・ワークショップ」に参加した者の割合は、正規雇用者が14.6%である一方、「望まずに非正規」の雇用者が参加した割合は5.7%となっており、その差は2.6倍である。同様に、「コミュニケーションやマナーを学ぶ授業」を受けたかどうかの受講有無に大きな差がある。』¹⁰とある。これらの状況を表したのが図3である。この調査から、高校

⁷ 調査票を用いた面接調査のこと

⁸ 国立教育政策研究所(2014)「高等学校政策全般の検証に基づく高等学校に関する総合的研究」p369より引用

⁹ 野村総合研究所(2013)は、以下の九種類の教育を「キャリア教育」と定義している。
授業興味や職業適性などの検査

- A) 職業人(企業からの派遣講師等)による実践的な授業・ワークショップ
- B) 職業人や地域の人に仕事の話聞く授業
- C) 職場体験学習・インターンシップ
- D) ボランティア活動
- E) 進路の目標や計画を考える授業
- F) 履歴書作成・面接対策など就職活動の進め方に関する授業
- G) コミュニケーションやマナーを学ぶ授業
- H) 労働法や就労支援の仕組みに関する授業

¹⁰ 内閣府「平成25年度年次経済財政報告」p258より引用

時に受ける「職業に関する教育」は、受講者の将来の雇用形態に影響を及ぼす可能性があることが推察できる。また、中里(2014)や、梅崎、田澤(2013)では、大学における個人の活動と、その後の就職と継続について分析を行っている。この研究では、「将来のビジョンを明確にしており、将来のことを調べて考えることを行っている学生ほど、早期離職の確率が低くなること」を示した。従って学生時代の活動や教育内容が将来の離職の選択に影響を与えていると考えられる。玄田・黒澤(2001)では、景気が悪い時期に就職活動を行ってしまったために起こる不本意就職や、職業意識・学歴が低いこと、進路指導の不足などを早期離職の原因との仮説を構築し、実証分析を行っている。分析の結果から、学校に在籍している際にしっかりと進路指導を受けた個人は転職する回数が少ないことや、景気が悪い状態で不本意な就職先を選んだ個人は、のちに景気が回復し、良くなったときに本来希望していた就職先に転職する確率が高い、といったことを示した。さらに、太田(2010)は、早期に離職する若者には、入社する前段階における会社についての理解不足や、社内教育への不満などの要因が離職に対して効果をもたらしていた可能性を示唆している。

以上の先行研究から、学生時代の授業内容や経験は、将来の就業形態や離職の確率に影響を及ぼしている可能性が示唆された。しかし、上述の先行研究では十分ではない部分がある。例えば国立教育政策研究所(2014)では、調査対象のサンプル数が普通科で13名、農業科で31名、工業科で10名、商業科で44名となっており、科によってサンプル数に偏りがある上に、普通科、工業科においてはサンプル数が10名強と少ない。また野村総合研究所(2013)では「望まない非正規雇用」¹¹に焦点が当てられており、その後の離職については触れられていない。中里(2014)や、梅崎、田澤(2013)は、大学における個人の経験が離職に与える影響を分析しており、高卒者及び高校での教育内容に焦点をあてていない。などである。本論文では、これらの不十分な部分を解消しつつ、分析を行う。具体的には、分析過程において分析対象を最終卒業学歴別に区分けをする。また、サンプル数を増やす。そして、野村総合研究所(2013)にならい、キャリア教育のもたらす影響に関して、早期離職に着目して分析する。分析結果から早期離職の抑制に効果的な教育内容を考察する。

¹¹ 「望まない非正規雇用」とは、「望まず非正規のまま(転職の有無は問わない)の雇用者」を意味する。

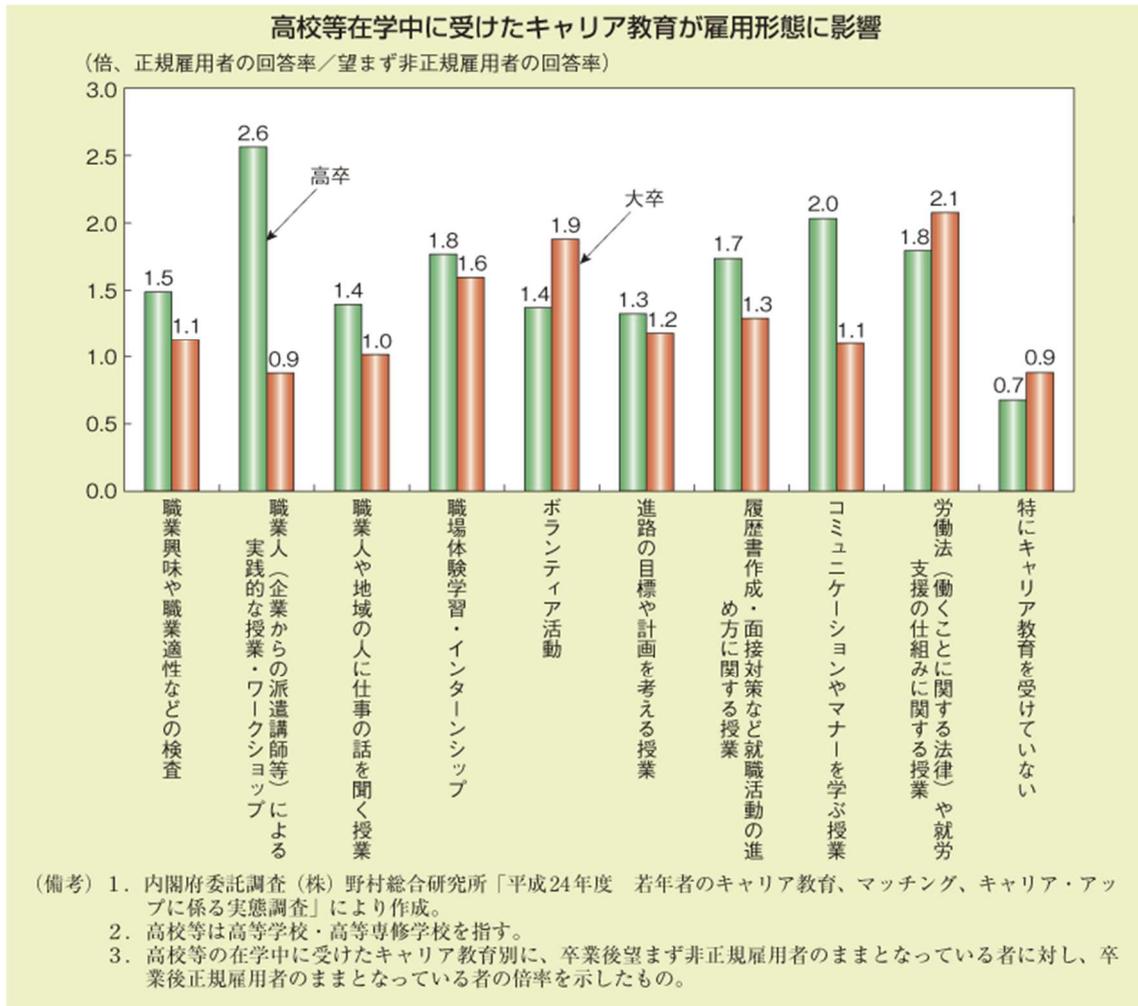


図3 高等学校在学中におけるキャリア教育の影響

【出所】内閣府「平成25年度年次経済財政報告」

(株)野村総合研究所(2013)「平成24年 若年者のキャリア教育、マッチング、キャリア・アップに係る調査実態」(内閣府委託調査)

http://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je13/pdf/p03011_2.pdf

第3章 分析

本章では、以下の仮説をプロビット分析と傾向スコアマッチングの二つの手法で分析する。

- ・高校時代の就業体験への参加は、早期離職、賃金の低下を伴う早期離職、離職理由に「仕事が自分に合わなかった」と回答する割合、を抑制する。また、高校時代の就業体験への参加は、初職において正規雇用就職する確率を高める。

- ・高校時代のアルバイト経験は、早期離職、賃金の低下を伴う早期離職、離職理由に「仕事が自分に合わなかった」と回答する割合、を抑制する。また、高校時代のアルバイト経験は、初職において正規雇用就職する確率を高める。

3.1 データ

分析で使用するデータの出典とその定義は、以下のとおりである。データは、リクルートワークス『ワーキングパーソン調査』(2014年)より出典した。本データの対象は以下のとおりである。データの記述統計量は表1に掲載した。

【本分析で用いる「ワーキングパーソン調査」の対象】

- ・東京・千葉・埼玉・神奈川のいずれかの地域に住んでいる。
- ・18～69歳である。
- ・2014年8月25日～8月31日に、一日でも働いた。
- ・正社員、パートタイマー、契約社員・嘱託、フリーター(社会人アルバイト)、派遣社員、業務委託・フリーランスのいずれかに該当する。
- ・分析は、離職を一度もしていない個人と、離職を一度しか行ってない個人を対象に行った。

【分析で使用するデータ】

A.説明変数：後期中等教育課程における経験を表す変数

①就業体験ダミー：調査票の質問 F13 の表側(3)「就業体験(職場体験やインターンシップなど)」で1～4を回答した者は1を、それ以外は0を取るダミー変数(以下、「就業体験ダミー」)。調査票の質問 F13 参照。

②アルバイト経験ダミー：調査票の質問 F13 の表側(9)「アルバイト経験」で1～4を回答した者は1を、それ以外は0を取るダミー変数(以下、「アルバイト経験ダミー」)調査票の質問 F13 参照。

表 1. 記述統計量

		N=5862		
変数名		Mean	S.D	ダミーで 1 を取る 数
	新卒三年以内離職ダミー	0.1117	0.3151	655
	新卒三年以内賃金低下離職ダミー	0.6011	0.2395	358
	仕事内容への不満離職(複数選択)ダミー	0.0785	0.2689	460
	仕事内容への不満離職(単数選択)ダミー	0.0411	0.1986	241
	就業体験ダミー	0.5844	0.4929	3412
	アルバイト経験ダミー	0.7694	0.4212	1346
	年齢	39.5184	12.3688	
	男性ダミー	0.674	0.4688	3951
	高卒	0.1692	0.375	992
学歴 ダミー	短大/専門卒	0.168	0.3739	985
	大卒ダ	0.6627	0.4738	3885
	初職正規雇用ダミー	0.8331	0.3729	4884
	農林/漁業・林業・水産業/鉱業	0.002	0.0452	12
	建設業	0.042	0.2005	246
業種 ダミー	製造業	0.2148	0.4107	1259
	卸売・小売業	0.0969	0.2958	568
	電気・ガス・水道・熱供給業	0.0128	0.1124	75
	情報通信業	0.139	0.346	815
	運輸業	0.0498	0.2176	292

	金融・保険業	0.072	0.2585	422
	不動産業	0.0152	0.1223	89
	飲食・宿泊業	0.0273	0.163	160
	医療・福祉業	0.0573	0.2325	336
	教育・学習支援業	0.0515	0.221	302
	郵便業	0.0034	0.0583	20
	その他サービス業	0.082	0.2744	481
	公務	0.058	0.2338	340
初職 の企業 規模 ダミー	99 人以下	0.2467	0.4311	1446
	499 人以下	0.1851	0.3884	1085
	999 人以下	0.0928	0.2902	544
	1000 人以上	0.4089	0.4917	2397
	公官庁	0.0665	0.2492	390

③就業体験ダミー×高卒ダミー：就業体験ダミーと、調査票の質問 SQ36-1 で 1~2 を回答した者は 1 を、それ以外は 0 を取るダミー変数(以下、「高卒ダミー」)のクロス項。高卒者への就業体験の効果を測定するために用いた。調査票の質問 SQ36-1 参照。

④就業体験ダミー×短大専門卒ダミー：就業体験ダミーと、調査票の質問 SQ36-1 で 3~5 を回答した者は 1 を、それ以外は 0 を取るダミー変数(以下、「短大専門卒ダミー」)のクロス項。短大や専門学校卒業者への就業体験の効果を測定するために用いた。調査票の質問 SQ36-1 参照。

⑤アルバイト経験ダミー×高卒ダミー：アルバイト経験ダミーと、高卒ダミーのクロス項。高卒者へのアルバイト体験の効果を測定するために用いた。

⑥アルバイト経験ダミー×短大専門卒ダミー：アルバイト経験ダミーと、短大専門卒ダミーのクロス項。短大や専門学校卒業者へのアルバイト経験の効果を測定するために用いた。

- ⑦就業体験ダミー×初職正規雇用ダミー：就業体験ダミーと、調査票の質問 Q37 で 1 と回答した者は 1 を、それ以外は 0 を取るダミー変数(以下、「初職正規雇用ダミー」)のクロス項。初職に正規雇用についての就業体験の効果を検証するために用いた。
- ⑧アルバイト経験ダミー×初職正規雇用ダミー：アルバイト経験ダミーと、初職正規雇用ダミーのクロス項。初職に正規雇用についてのアルバイト経験の効果を検証するために用いた。
- ⑨就業体験ダミー×高卒ダミー×初職正規雇用ダミー：就業体験ダミーと高卒ダミーと初職正規雇用ダミーのクロス項。高卒で初職に正規雇用についての就業体験の効果を検証するために用いた。
- ⑩就業体験ダミー×短大専門卒ダミー×初職正規雇用ダミー：就業体験ダミーと短大専門卒ダミーと初職正規雇用ダミーのクロス項。短大や専門学校卒で初職に正規雇用についての就業体験の効果を検証するために用いた。
- ⑪アルバイト経験ダミー×高卒ダミー×初職正規雇用ダミー：アルバイト経験ダミーと高卒ダミーと初職正規雇用ダミーのクロス項。高卒で初職に正規雇用についてのアルバイト経験の効果を検証するために用いた。
- ⑫アルバイト経験ダミー×短大専門卒ダミー×初職正規雇用ダミー：アルバイト経験ダミーと短大専門卒ダミーと初職正規雇用ダミーのクロス項。短大や専門学校卒で初職に正規雇用についてのアルバイト経験の効果を検証するために用いた。

B.被説明変数

- ⑬新卒三年以内離職ダミー：調査票の質問 Q18 で 1 と答え、且つ初職の勤続年数が 3 年未満の人は 1 を、それ以外は 0 を取るダミー変数。調査票の質問 Q18 及び Q25 参照。
- ⑭新卒三年以内賃金低下離職ダミー：調査票の質問 Q18 で 1 と答え、且つ初職の勤続年数が 3 年未満かつ転職後二年間の平均年収が前職の最後の一年の平均年収を下回っている人は 1 を、それ以外は 0 を取るダミー変数。この変数は、ジョブ・マッチング理論が存在することから、賃金で測定した生産性が低下する離職に焦点を当てた。調査票の質問 Q18 及び Q25 及び Q33 参照。
- ⑮退職した理由として「仕事内容への不満」が挙げられているかどうかを表す変数：調査票の質問 Q21 で 9 番「仕事内容への不満」を回答した人は 1 を、それ以外は 0 を取るダミー変数。調査票の質問 Q21 参照。
- ⑯初職正規雇用ダミー

3.2 プロビット分析とその結果

上述のダミー変数への変換を行ったデータを用いて、プロビット分析を行った。分析モデルは以下の通りである。

$$P = x\beta_1 + X\beta_2 + u$$

被説明変数 P は上記⑬から⑯の変数を、説明変数 X は上記①から⑫の変数を用いた。それぞれの分析について、分析対象となっている個人の年齢、年齢の二乗項、性別、初職の業種、初職の企業の従業員規模、学歴、初職正規雇用ダミーを、コントロール変数 X として導入している。その結果が表 2～7 である。なお、表では限界効果を報告しており、標準誤差は不均一分散に対応して、頑健なロバスト標準誤差を用いた。定数項はすべての式に含まれている。

次に、分析結果の報告を行う。就業体験やアルバイト経験といった、学生時代に積むことのできる仕事経験は、将来の早期離職や賃金の低下する早期離職、また「仕事が自分に合っていないためにやめた」という離職理由に対して、仮説と整合的な有意な影響はなかった。しかし表 7 を見ると、就業体験は短大専門卒のクロス項において、初職で正規雇用に就くことに有意に正の影響を及ぼしていた。

表 2. プロビット分析(被説明変数：新卒三年以内離職ダミー)

被説明変数 新卒三年以内離職ダミー	(1)~(12)	(13)
①就業体験ダミー	-0.00647 (0.00815)	-0.0339 (0.0262)
②アルバイト経験ダミー	-0.0171* (0.00972)	-0.0303 (0.0289)
③就業体験ダミー×高卒ダミー	-0.0170 (0.0196)	-0.0218 (0.0350)
④就業体験ダミー×短大専門卒ダミー	-0.0065 (0.0199)	-0.0116 (0.0417)
⑤アルバイト経験ダミー×高卒ダミー	0.0631** (0.0362)	0.0731 (0.0564)
⑥アルバイト経験ダミー×短大専門卒ダミー	-0.0108 (0.0252)	-0.0342 (0.0351)
⑦就業体験ダミー×初職正規雇用ダミー	0.0537*** (0.0194)	0.0494* (0.0279)
⑧アルバイト経験ダミー×初職正規雇用ダミー	0.0231 (0.0205)	0.00319 (0.0279)
⑨就業体験ダミー×高卒ダミー×初職正規雇用ダミー	-0.0014 (0.0462)	-0.00280 (0.0468)
⑩就業体験ダミー×短大専門卒ダミー×初職正規雇用ダミー	-0.0351 (0.0387)	-0.00390 (0.0483)
⑪アルバイト経験ダミー×高卒ダミー×初職正規雇用ダミー	0.0002 (0.0581)	0.0137 (0.0450)
⑫アルバイト経験ダミー×短大専門卒ダミー×初職正規雇用ダミー	-0.0274 (0.0532)	0.0576 (0.0561)
年齢/年齢の二乗項/男性ダミー/業種ダミー /従業員規模ダミー/学歴ダミー/初職正規雇用ダミー	yes	yes
N	5,826	5,826

*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1

(1)~(12)は①~⑫をそれぞれ説明変数として入れ、コントロールにはそれぞれの要素を単独で追加したモデル。式にクロス項が存在する場合のみ、そのクロス項を構成する各変数も、コントロール変数として含めて推定している。(13)は①~⑫をすべて入れたモデル。

表 3. プロビット分析(被説明変数：新卒三年以内賃金低下離職ダミー)

被説明変数 新卒三年以内賃金低下離職ダミー	(1)~(12)	(13)
①就業体験ダミー	-0.00476 (0.00599)	-0.0148 (0.0181)
②アルバイト経験ダミー	-0.0115 (0.00727)	-0.0341 (0.0228)
③就業体験ダミー×高卒ダミー	0.0117 (0.0182)	-0.00781 (0.0258)
④就業体験ダミー×短大専門卒ダミー	0.0017 (0.0158)	-0.00848 (0.0281)
⑤アルバイト経験ダミー×高卒ダミー	0.0459** (0.0299)	0.0536 (0.0465)
⑥アルバイト経験ダミー×短大専門卒ダミー	0.0004 (0.0202)	-0.00745 (0.0286)
⑦就業体験ダミー×初職正規雇用ダミー	0.028 (0.0138)	0.0159 (0.0194)
⑧アルバイト経験ダミー×初職正規雇用ダミー	0.0236* (0.0137)	0.0178 (0.0181)
⑨就業体験ダミー×高卒ダミー×初職正規雇用ダミー	0.0275 (0.0452)	0.0315 (0.0472)
⑩就業体験ダミー×短大専門卒ダミー×初職正規雇用ダミー	-0.0141 (0.0294)	0.0123 (0.0402)
⑪アルバイト経験ダミー×高卒ダミー×初職正規雇用ダミー	0.0066 (0.0455)	-0.00119 (0.0297)
⑫アルバイト経験ダミー×短大専門卒ダミー×初職正規雇用ダミー	-0.0183 (0.0362)	0.0197 (0.0376)
年齢/年齢の二乗項/男性ダミー/業種ダミー /従業員規模ダミー/学歴ダミー/初職正規雇用ダミー	Yes	yes
N	5,806	5,806

*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1

(1)~(12)は①~⑫をそれぞれ説明変数として入れ、コントロールにはそれぞれの要素を単独で追加したモデル。式にクロス項が存在する場合のみ、そのクロス項を構成する各変数も、コントロール変数として含めて推定している。(13)は①~⑫をすべて入れたモデル。

表 4. プロビット分析(被説明変数：仕事内容への不満離職(複数選択)ダミー)

被説明変数 仕事内容への不満離職(複数選択)ダミー	(1)~(12)	(13)
①就業体験ダミー	-0.0187 (0.0388)	-0.155 (0.118)
②アルバイト経験ダミー	0.0461 (0.0425)	0.0281 (0.113)
③就業体験ダミー×高卒ダミー	0.113 (0.130)	0.00947 (0.190)
④就業体験ダミー×短大専門卒ダミー	0.1856* (0.1082)	0.292 (0.219)
⑤アルバイト経験ダミー×高卒ダミー	0.1919 (0.1691)	0.277 (0.198)
⑥アルバイト経験ダミー×短大専門卒ダミー	-0.0008 (0.124)	0.0534 (0.201)
⑦就業体験ダミー×初職正規雇用ダミー	0.0871 (0.0914)	0.0660 (0.130)
⑧アルバイト経験ダミー×初職正規雇用ダミー	0.0161 (0.0991)	0.0539 (0.126)
⑨就業体験ダミー×高卒ダミー×初職正規雇用ダミー	0.3203 (0.270)	0.349 (0.288)
⑩就業体験ダミー×短大専門卒ダミー×初職正規雇用ダミー	0.0882 (0.2123)	-0.0477 (0.214)
⑪アルバイト経験ダミー×高卒ダミー×初職正規雇用ダミー	-0.1414 (0.233)	-0.221* (0.132)
⑫アルバイト経験ダミー×短大専門卒ダミー×初職正規雇用ダミー	-0.0711 (0.283)	-0.113 (0.167)
年齢/年齢の二乗項/男性ダミー/業種ダミー		
/従業員規模ダミー/学歴ダミー/初職正規雇用ダミー	yes	yes
N	649	649

*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1

(1)~(12)は①~⑫をそれぞれ説明変数として入れ、コントロールにはそれぞれの要素を単独で追加したモデル。式にクロス項が存在する場合のみ、そのクロス項を構成する各変数も、コントロール変数として含めて推定している。(13)は①~⑫をすべて入れたモデル。なお、分析対象は離職経験者のみである。

表 5. プロビット分析(被説明変数：仕事内容への不満離職(単数選択)ダミー)

被説明変数 仕事内容への不満離職(単数選択)ダミー	(1)~(12)	(13)
①就業体験ダミー	0.00587 (0.0302)	-0.0216 (0.0981)
②アルバイト経験ダミー	0.0213 (0.0332)	0.0397 (0.0906)
③就業体験ダミー×高卒ダミー	0.0007 (0.0879)	-0.0315 (0.131)
④就業体験ダミー×短大専門卒ダミー	0.097 (0.1014)	0.0539 (0.192)
⑤アルバイト経験ダミー×高卒ダミー	0.0149 (0.1171)	0.0971 (0.176)
⑥アルバイト経験ダミー×短大専門卒ダミー	-0.0431 (0.1163)	0.172 (0.211)
⑦就業体験ダミー×初職正規雇用ダミー	-0.0167 (0.073)	0.00454 (0.105)
⑧アルバイト経験ダミー×初職正規雇用ダミー	0.084 (0.231)	-0.0266 (0.108)
⑨就業体験ダミー×高卒ダミー×初職正規雇用ダミー	0.0916 (0.232)	0.146 (0.290)
⑩就業体験ダミー×短大専門卒ダミー×初職正規雇用ダミー	0.231 (0.0882)	0.0731 (0.227)
⑪アルバイト経験ダミー×高卒ダミー×初職正規雇用ダミー	0.0923 (0.136)	-0.122 (0.0866)
⑫アルバイト経験ダミー×短大専門卒ダミー×初職正規雇用ダミー	-0.377*** (0.0314)	-0.113 (0.102)
年齢/年齢の二乗項/男性ダミー/業種ダミー /従業員規模ダミー/学歴ダミー/初職正規雇用ダミー	yes	yes
N	644	644

c p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1

(1)~(12)は①~⑫をそれぞれ説明変数として入れ、コントロールにはそれぞれの要素を単独で追加したモデル。式にクロス項が存在する場合のみ、そのクロス項を構成する各変数も、コントロール変数として含めて推定している。(13)は①~⑫をすべて入れたモデル。なお、分析対象は離職経験者のみである。

表 6. プロビット分析(被説明変数：新卒三年以内賃金低下離職ダミー)

被説明変数 新卒三年以内賃金低下離職ダミー	(1)~(12)	(13)
①就業体験ダミー	-0.0076 (0.0419)	0.0237 (0.118)
②アルバイト経験ダミー	-0.0268 (0.047)	-0.170 (0.111)
③就業体験ダミー×高卒ダミー	0.207 (0.0974)	0.0103 (0.183)
④就業体験ダミー×短大専門卒ダミー	0.094 (0.096)	-0.0170 (0.203)
⑤アルバイト経験ダミー×高卒ダミー	0.035 (0.155)	0.0465 (0.194)
⑥アルバイト経験ダミー×短大専門卒ダミー	-0.045 (0.123)	0.0904 (0.188)
⑦就業体験ダミー×初職正規雇用ダミー	-0.011 (0.093)	-0.104 (0.132)
⑧アルバイト経験ダミー×初職正規雇用ダミー	0.172 (0.104)	0.209 (0.130)
⑨就業体験ダミー×高卒ダミー×初職正規雇用ダミー	0.286 (0.166)	0.352*** (0.136)
⑩就業体験ダミー×短大専門卒ダミー×初職正規雇用ダミー	0.0204 (0.238)	0.128 (0.213)
⑪アルバイト経験ダミー×高卒ダミー×初職正規雇用ダミー	0.068 (0.209)	-0.175 (0.205)
⑫アルバイト経験ダミー×短大専門卒ダミー×初職正規雇用ダ ミー	-0.063 (0.305)	-0.108 (0.198)
年齢/年齢の二乗項/男性ダミー/業種ダミー /従業員規模ダミー/学歴ダミー/初職正規雇用ダミー	yes	yes
N	647	647

*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1

(1)~(12)は①~⑫をそれぞれ説明変数として入れ、コントロールにはそれぞれの要素を単独で追加したモデル。式にクロス項が存在する場合のみ、そのクロス項を構成する各変数も、コントロール変数として含めて推定している。(13)は①~⑫をすべて入れたモデル。なお、分析対象は離職経験者のみである。

表 7. プロビット分析(被説明変数：初職正規雇用ダミー)

被説明変数 初職正規雇用ダミー	(1)～(6)	(7)
①就業体験ダミー	0.0204** (0.00917)	0.00557 (0.0122)
②アルバイト経験ダミー	0.0132 (0.0106)	0.0134 (0.0138)
③就業体験ダミー×高卒ダミー	0.0192 (0.0192)	0.0319* (0.0190)
④就業体験ダミー×短大専門卒ダミー	0.0192* (0.0211)	0.0272 (0.0214)
⑤アルバイト経験ダミー×高卒ダミー	-0.0212 (0.0272)	-0.0329 (0.0301)
⑥アルバイト経験ダミー×短大専門卒ダミー	0.0118 (0.0291)	0.00175 (0.0320)
年齢/年齢の二乗項/男性ダミー/業種ダミー /従業員規模ダミー/学歴ダミー	yes	yes
N	5,833	5,833

*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1

(1)～(6)は①～⑥をそれぞれ説明変数として入れ、コントロールにはそれぞれの要素を単独で追加したモデル。式にクロス項が存在する場合のみ、そのクロス項を構成する各変数も、コントロール変数として含めて推定している。(7)は①～⑥をすべて入れたモデル。

3.3 傾向スコアマッチングとその結果

プロビット分析では、観察できない要因による欠落変数バイアスが生じている可能性が考えられるため、その推定値が頑健でない可能性が考えられる。そこで本節では、就業体験やアルバイト経験が、その後の就業形態及び早期離職に及ぼす影響を、平均処置効果で推定する。分析手法は傾向スコアマッチングを用いた。傾向スコアマッチング法を採用することで、できる限り「似た」特性を持ち、就業体験やアルバイト経験の有無のみが異なるような個人間の比較が可能になるため、就業体験やアルバイト経験の純粋な効果を抽出できることが期待される。本分析においては傾向スコアを用いた分析のうち、ニアレスト・ネイバー・マッチングを採用した。傾向スコアを算出したロジット分析については、表 8 に掲載した。

結果についての報告を行う。結果は表15に掲載した。就業体験、アルバイト経験は早期離職や賃金の低下する早期離職に対して有意な影響はなかった。しかしプロビット分析の結果と同様、就業体験は、初職で正規雇用に就くことに有意に正の影響を及ぼしていた。

表8. 傾向スコアの推計

説明変数	(1)	(2)
	就業体験ダミー	アルバイト経験ダミー
	—	—
年齢	-0.166*** (0.0166)	0.0358* (0.0185)
年齢の二乗項	0.00183*** (0.000194)	-0.000411* (0.000217)
男性ダミー	0.277*** (0.0626)	0.141* (0.0721)
北海道	0.253 (0.475)	-0.955 (0.660)
青森県	0.305 (0.562)	-1.633** (0.716)
岩手県	0.515 (0.611)	-1.169 (0.765)
宮城県	0.527 (0.515)	-0.842 (0.695)
秋田県	-0.232 (0.577)	-1.233* (0.743)
山形県	0.618 (0.568)	-0.969 (0.734)
福島県	0.442 (0.510)	-0.789 (0.693)
茨城県	0.283 (0.500)	-0.593 (0.691)
栃木県	0.299 (0.516)	-1.320* (0.686)
群馬県	0.672	-1.091

	(0.534)	(0.703)
埼玉県	0.524	-0.508
	(0.443)	(0.634)
千葉県	0.513	-0.514
	(0.443)	(0.635)
東京都	0.490	-0.543
	(0.439)	(0.630)
神奈川県	0.417	-0.591
	(0.441)	(0.632)
新潟県	0.542	-0.623
	(0.520)	(0.710)
富山県	-0.266	-1.251
	(0.661)	(0.810)
石川県	0.0778	-1.209
	(0.610)	(0.770)
福井県	1.567**	
	(0.792)	
山梨県	0.666	-0.0799
	(0.639)	(0.888)
長野県	-0.236	-0.687
	(0.522)	(0.706)
岐阜県	0.907	-1.492**
	(0.602)	(0.739)
静岡県	0.294	-0.823
	(0.487)	(0.672)
愛知県	0.292	-0.860
	(0.482)	(0.666)
三重県	0.235	-0.296
	(0.607)	(0.838)
滋賀県	-0.187	-1.364
	(0.725)	(0.855)
京都府	0.0114	-0.793
	(0.541)	(0.722)
大阪府	0.113	-0.691
	(0.481)	(0.667)
兵庫県	0.0164	-1.066

	(0.484)	(0.664)
奈良県	-0.457	-0.515
	(0.685)	(0.853)
和歌山県	-0.0303	-1.143
	(0.706)	(0.848)
鳥取県	0.459	-0.231
	(0.744)	(1.005)
島根県	0.469	-1.132
	(0.755)	(0.893)
岡山県	0.799	-0.443
	(0.624)	(0.808)
広島県	0.443	-1.315*
	(0.530)	(0.697)
山口県	-0.290	-0.987
	(0.566)	(0.736)
徳島県	-0.0555	-1.094
	(0.742)	(0.883)
香川県	-0.594	-2.303***
	(0.750)	(0.853)
愛媛県	0.453	-1.620**
	(0.627)	(0.766)
高知県	0.0206	-1.149
	(0.783)	(0.945)
福岡県	-0.118	-1.180*
	(0.495)	(0.672)
佐賀県	-0.115	-1.447
	(0.789)	(0.911)
長崎県	0.905	-1.463*
	(0.624)	(0.755)
熊本県	-0.404	-1.673**
	(0.652)	(0.790)
大分県	0.537	-0.805
	(0.702)	(0.869)
宮崎県	0.988	-0.327
	(0.752)	(0.998)
鹿児島県	0.773	-1.106

	(0.618)	(0.764)
父高卒ダミー	-0.187	-0.304**
	(0.123)	(0.150)
父大卒ダミー	-0.218*	-0.415***
	(0.124)	(0.150)
母高卒ダミー	0.0846	0.155*
	(0.0786)	(0.0892)
母大卒ダミー	0.364***	0.125
	(0.0964)	(0.107)
中学三年時成績上位ダミー	0.0836	0.131
	(0.152)	(0.174)
中学三年時成績中位ダミー	0.361**	0.544***
	(0.152)	(0.176)
進学者の多い高校ダミー	-0.448***	-0.342***
	(0.0986)	(0.121)
就職者の多い高校ダミー	0.104	0.243*
	(0.110)	(0.138)
高卒ダミー	0.186**	0.0828
	(0.0882)	(0.104)
短大専門卒ダミー	0.499***	0.630***
	(0.0835)	(0.107)
定数項	3.272***	1.130
	(0.567)	(0.751)
N	5,838	5,824

*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1

表 9. 傾向スコアの分布（就業体験）～早期離職比較

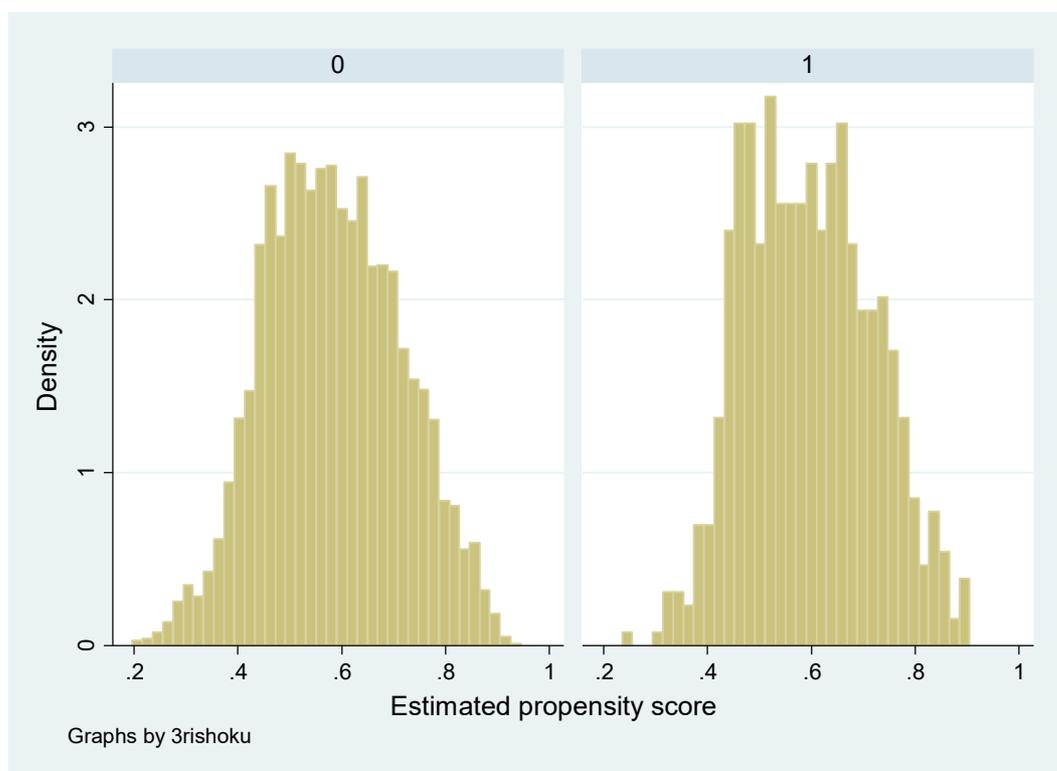


表 10. 傾向スコアの分布（就業体験）～早期賃金低下離職比較

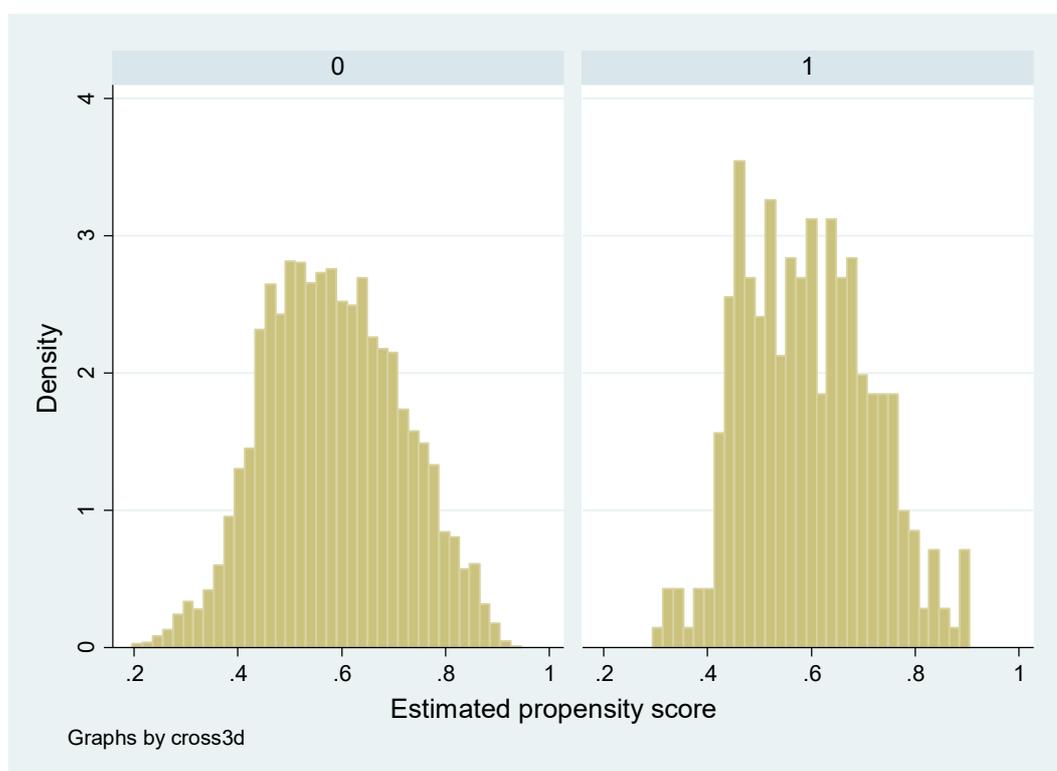


表 1 1. 傾向スコアの分布（就業体験）～初職正規雇用比較

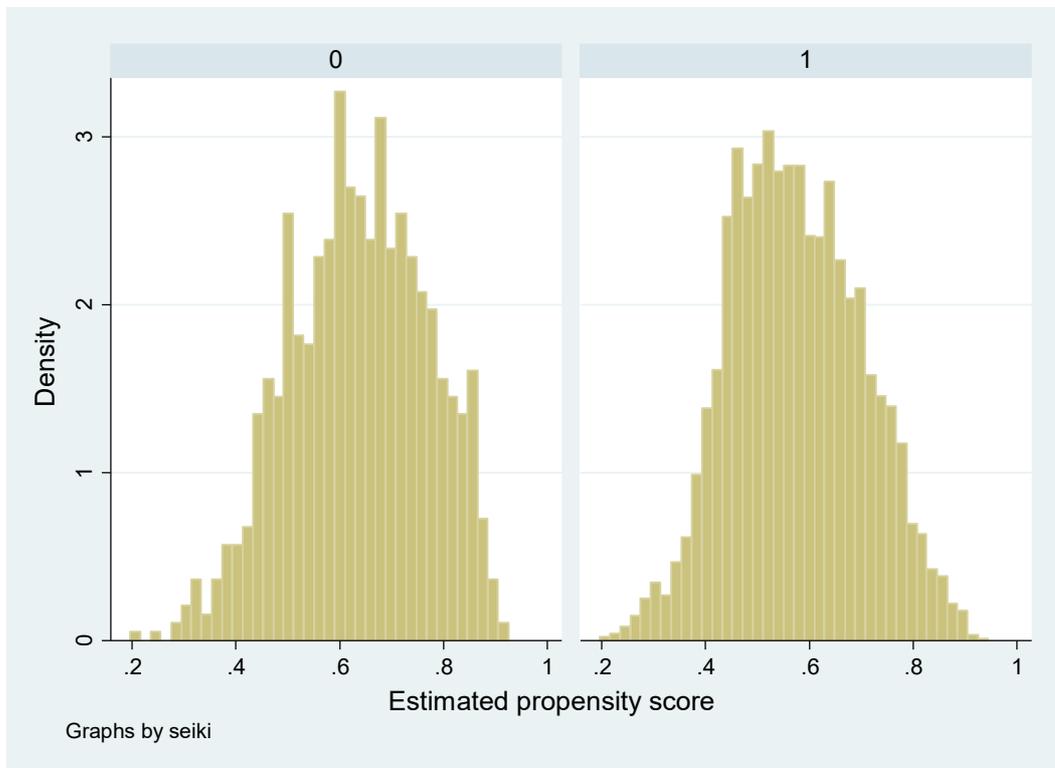


表 1 2. 傾向スコアの分布（アルバイト経験）～早期離職比較

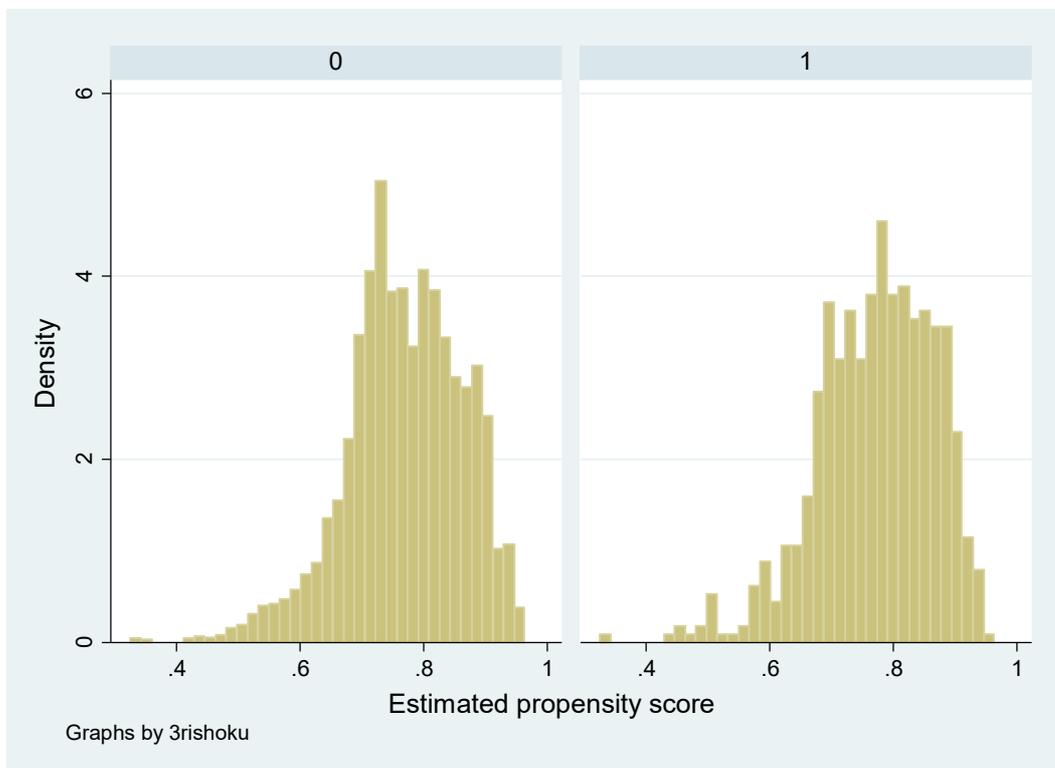


表 1 3. 傾向スコアの分布（アルバイト経験）～早期賃金低下離職比較

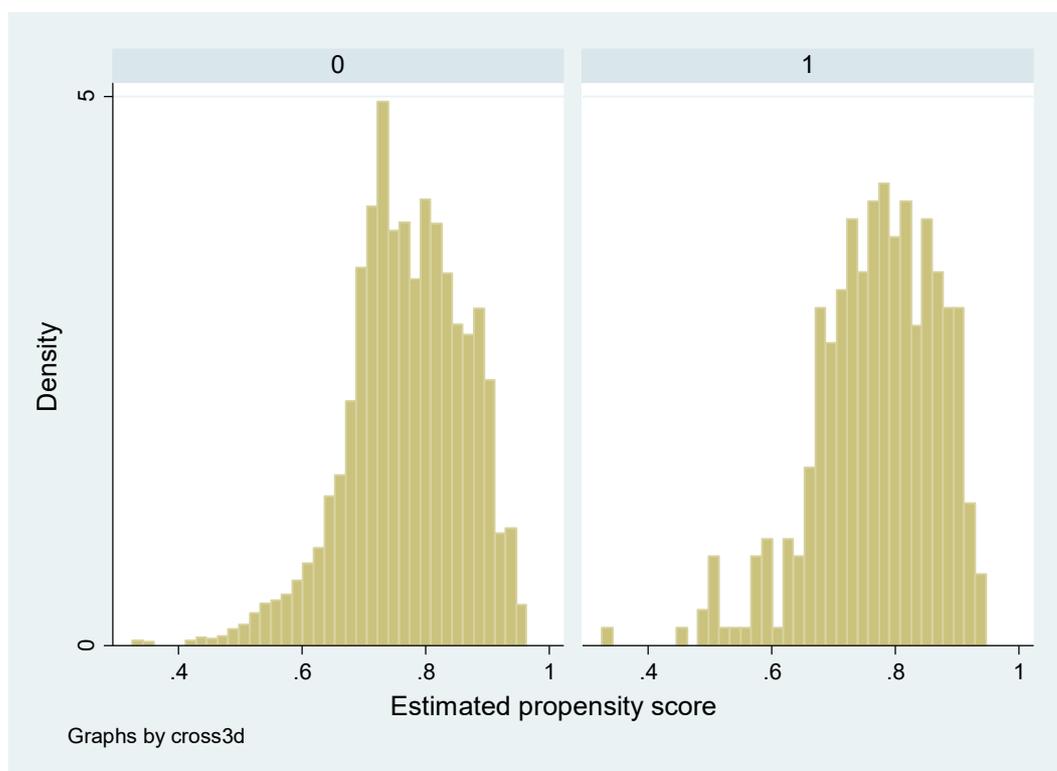


表 1 4. 傾向スコアの分布（アルバイト経験）～初職正規雇用比較

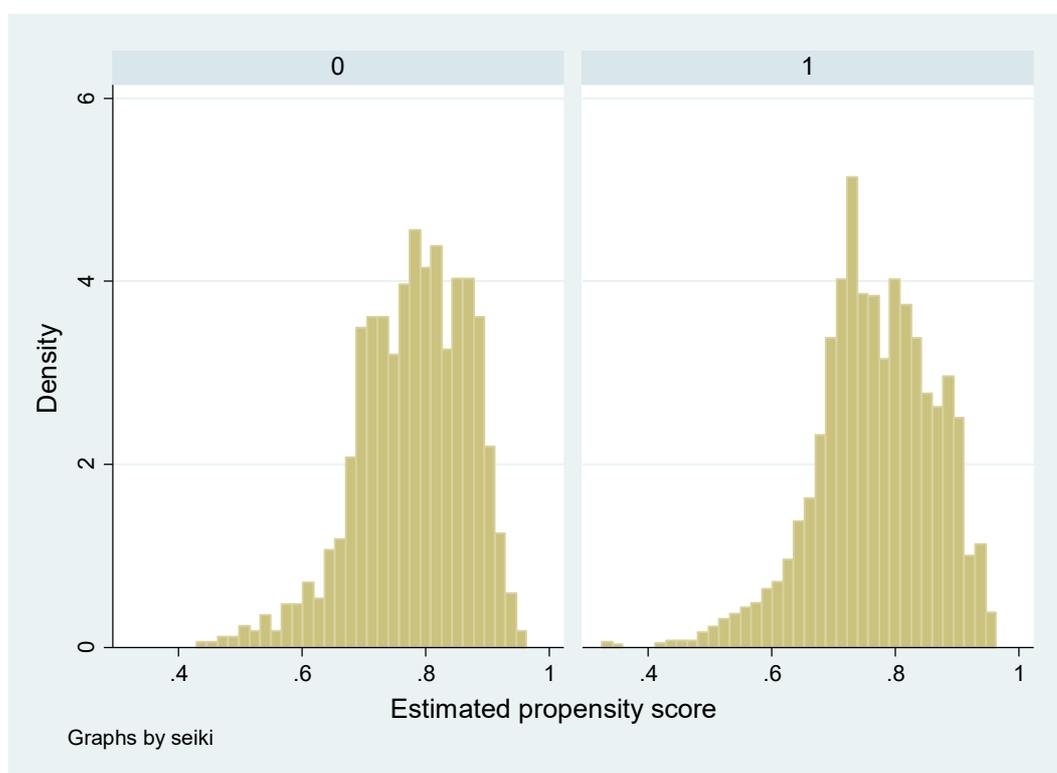


表 15. 傾向スコアマッチング(ニアレスト・ネイバー・マッチング)

新卒三年以内離職ダミー	ATT	N(treatment group)	N(control group)
就業体験ダミー	0.001 (0.012)	3412	1579
アルバイト経験ダミー	0.002 (0.014)	4492	1118

新卒三年以内賃金低下離職ダミー	ATT	N(treatment group)	N(control group)
就業体験ダミー	0.001 (0.009)	3412	1579
アルバイト経験ダミー	-0.003 (0.011)	4492	1118

初職正規雇用ダミー	ATT	N(treatment group)	N(control group)
就業体験ダミー	0.033** (0.014)	3412	1579
アルバイト経験ダミー	0.020 (0.017)	4492	1118

第4章 考察

本章では、結果についての解釈と考察を行う。先行研究において重要視されており、仮説としても、離職の要因と考えていた「学生時代の職業教育」については、早期離職、賃金の低下を伴う早期離職、離職理由に「仕事が自分に合わなかった」と回答する割合、の抑制には働かなかった。しかし高校時代の就業体験への参加は、初職において正規雇用就職率を高める。これらのことから、早期離職率を引き下げるにあたっては、既存の就業体験は有効でない可能性が示唆された。しかし就業体験は正規雇用就職率を高める可能性を示唆した。

初職において正規雇用就職することは、高卒就職者にとって特に重要である。なぜなら非正規雇用という離職の発生しやすい就業形態への高卒者の就職は、大卒以上の人の早期離職と比較して、問題となる可能性が高い。長谷川(2011)では、新規高等学校卒業予定者の就職経路と、就職後の離職について研究を行っており、特に高卒者においては初職に継続して勤務すること、すなわち早期離職を減少させることの重要性を論じている。同論文では早期離職の原因として、高等学校においてキャリア教育が充実していないことを上げていく。さらに太田、玄田、近藤(2007)では以下のことを説明している。人が離職し、次の職に移る転職行動の際、大卒者には過去の職業歴以外にも出身大学や専攻分野といった情報を企業側に提供できるが、高卒者にはそういった情報がなく、結果的に採用する企業としても情報が多い人間の方が採用しやすいと考えるため、高卒者ほど職業を探す時間が長くなってしまふ。結果として、その期間生産性を発揮することが出来なくなってしまふ。従って高卒者にとっては大卒者と比較して離職し、転職行動を行うことのリスクが高くなる。加えて情報が少ないことから、大卒者と比較して高卒者の方が転職後の賃金の下落率が大きくなると考えられる。高卒者と大卒者の転職後の賃金の下落率に関する先行研究はいくつか存在する。例えばFarber(2005)では、大卒者に比べて高卒者の方が、転職した際の賃金の下落率が大きいとしている。また、永瀬、縄田、水落(2011)では、男性と無配偶女性に限定すると、教育年数が高い、すなわち労働生産性が高いほど、早く再就職している、とした。

上記先行研究から、高卒者ほど早期離職してしまつた際の悪影響は大きくなると考えられる。従って高卒就職する人が多い学校ほど、就業体験といった職業教育を充実させ、初職における正規雇用率の増加を通じて早期離職の抑制を図るべきである。

参考文献・参考データ・資料

太田聰一(2010)『若年者就業の経済学』日本経済新聞出版社

文部科学省(1999)「初等中等教育と高等教育の接続の改善について」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_chukyo_index/toushin/attach/1309755.htm

文部科学省(2004)「キャリア教育の推進に関する調査協力者会議報告書」
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/12/attach/1314525.htm

厚生労働省(2012)「雇用動向調査 参考表」
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&listID=000001117127&requestSender=dsearch

厚生労働省ホームページ「雇用動向調査 調査の結果」
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/9-23-1b.html#link01>

厚生労働省ホームページ「新規学卒者の離職状況に関する資料一覧」
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/01/tp0127-2/24.html>

厚生労働省(2009)「平成 21 年若年者雇用実態調査」
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/koyou/young/h21/kojin.html>

厚生労働省(2003)「若年者キャリア支援研究会報告書」
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/09/h0919-5e.html>

厚生労働省(2008)「平成 20 年版労働経済の分析」
http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/08/dl/02_0002.pdf

国立教育政策研究所(2014)「高等学校政策全般の検証に基づく高等学校に関する総合的研究」
http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/seika_digest_h25.html

国立教育政策研究所(2012)「職場体験・インターンシップ実施状況等経年変化に関する報告書[平成16年度～平成22年度]

<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/i-ship/i-ship-report/zentaiban.pdf>

内閣府「平成25年度年次経済財政報告」

http://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je13/pdf/p03011_2.pdf

内閣府「県民経済計算」

http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/sonota/kenmin/kenmin_top.html

長島伸太郎(2007)「新規大卒三年以内離職率が企業利益に与える影響に関する研究」東京工業大学 大学院社会理工学研究科・工学部 社会工学専攻・社会工学科 学位論文便概集 2008 No,39

http://www.soc.titech.ac.jp/info/cat13/detail_54.html

日本経済研究センター(2011)「3年以内の早期離職率3割の衝撃：学生、企業双方に多大なコスト」

<http://www.jcer.or.jp/report/econ100/pdf/econ100bangai20110715.pdf>

中里弘穂(2015)「若年者の早期離職の要因と職場並びに教育現場での効果的な離職防止策を考える」The Journal of Economic Education No,34 September 2015

梅崎修, 田澤実(2013)『大学生の学びとキャリア—入学前から卒業後の継続調査の分析—』pp.65-76 法政大学出版局

中里弘穂(2014)「キャリア教育における金融教育の取り入れと効果」『経済教育』第33号 pp.98-103

阿部正浩(1996)「転職前後の賃金変化と人的資本の損失」三田商学研究 第39巻第1号 1996年4月

Jovanovic, Boyan (1979b) "Firm-specific Capital and Turnover" The Journal of Political Economy, Vol. 87, No. 6, Part 1, pp. 1246-1260

Mincer, J. (1974), Schooling, Experience, and Earnings, Columbia University Press.

Becker, G. (1964) *Human Capital: A Theoretical and Empirical Analysis*, Columbia University Press. (佐野陽子訳『人的資本—教育を中心とした理論的・経験的分析』

東洋経済新報社、1976).

玄田有史、黒澤昌子(2001)「学校から職場へー「七・五・三」転職の背景」
『日本労働研究雑誌』No.490, pp.2-10。

太田聰一(2003)「若者の就業機会の減少と学力低下問題」伊藤隆敏、西村和雄
編『教育改革の経済学』日本経済新聞社

リクルートワークス研究所(2014)『ワーキングパーソン調査,2014』(東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJ データアーカイブ/調査番号 1046)

萩原牧子(2014)「若年転職行動の国際比較研究」大阪大学 国際公共政策大学院比較公共政策 博士論文要旨集

<http://hdl.handle.net/11094/50559>

寺田盛紀(2008)「わが国におけるキャリア教育の課題—若干の通説的理解を見直す」労働政策研究・研修機構

餅川正雄(2016)「キャリア教育と進路指導に関する研究」広島経済大学 地域経済研究所 研究双書 第43冊

Bachmann, R., Bauer, T.K., and David, P.(2009)“Cohort Wage Effects and Job Mobility: Evidence from German Linked Employer-Employee Data,”RWI, Essen.

Oreopoulos, P., von Wachter, T., and Heisz, A.(2012)“Short- and Long-term Career Effects of Graduating in a Recession,”*American Economic Journal: Applied Economics*, 4 (1) , pp.1-29.

Topel, R.H., and Ward, M.P.(1992)“Job Mobility and the Careers of Young Men,”*Quarterly Journal of Economics*, 107 (2) , pp.439-479.

《ワーキングパーソン調査 調査票》 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJデータアーカイブ
■ 調査番号 1046
■ 調査名 ワーキングパーソン調査, 2014
※ 本調査票を引用する際には出典を明記して下さい。

働き方に関するアンケート

アンケートにアクセスしていただき、ありがとうございます。

このアンケートは次の条件に当てはまる方にアンケートを実施するものです。

・東京、千葉、埼玉、神奈川にお住まいの方。
・18～69歳の方。
・8/25(月)～8/31(日)に1日でも働いた方。

・下記のうち、1～6(正社員・正職員～業務委託・フリーランスまで)の就業形態に就いている方。

<対象となる方>

- 1 正社員・正職員
- 2 パートタイマー
- 3 契約社員・雇託
- 4 フリーター(社会人アルバイト)
- 5 派遣社員
- 6 業務委託・フリーランス(従業員を持たず、個人で会社との契約に基づき、業務にたずさわる方)

以上の方に、アンケートの実施をお願いします。

<対象とならない方>

- 7 経営者・役員
- 8 自営・家族従業者
- 9 専業主婦
- 10 内職
- 11 家事手伝い
- 12 無職
- 13 学生
- 14 その他

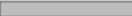
アンケート内には年収、職種・業種などを詳しくお聞きする内容が含まれていません。

アンケートの回答途中で中断し、ブラウザを閉じた場合でも、再度アクセスいただければ、それまで回答していたページが表示されますので、ご都合に合わせて何回かに分けて回答していただけます。

アンケートであなたご自身やあなたのご家族についてお伺いする場合があります。条件をご確認の上、よろしければアンケートにご協力をお願いします。

ご協力いただける場合は「開始」ボタンを押し、回答を開始してください。

開始

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F1 あなたの性別をお答えください。

(回答は1つ)

- 男性
- 女性

F2 あなたの現在の年齢をお答えください。

(回答は半角数字で入力)

歳

F3 現在、どちらにお住まいですか。

(回答は1つ)

- 東京
- 千葉
- 埼玉
- 神奈川
- その他

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F4 あなたの出身地(都道府県)はどちらですか。
出身地とは、必ずしも出生した所に限らず、ご自分が出身地だと思っている所をお答えください。

(回答は1つ)

- | | | |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| <input type="radio"/> 北海道 | <input type="radio"/> 石川県 | <input type="radio"/> 岡山県 |
| <input type="radio"/> 青森県 | <input type="radio"/> 福井県 | <input type="radio"/> 広島県 |
| <input type="radio"/> 岩手県 | <input type="radio"/> 山梨県 | <input type="radio"/> 山口県 |
| <input type="radio"/> 宮城県 | <input type="radio"/> 長野県 | <input type="radio"/> 徳島県 |
| <input type="radio"/> 秋田県 | <input type="radio"/> 岐阜県 | <input type="radio"/> 香川県 |
| <input type="radio"/> 山形県 | <input type="radio"/> 静岡県 | <input type="radio"/> 愛媛県 |
| <input type="radio"/> 福島県 | <input type="radio"/> 愛知県 | <input type="radio"/> 高知県 |
| <input type="radio"/> 茨城県 | <input type="radio"/> 三重県 | <input type="radio"/> 福岡県 |
| <input type="radio"/> 栃木県 | <input type="radio"/> 滋賀県 | <input type="radio"/> 佐賀県 |
| <input type="radio"/> 群馬県 | <input type="radio"/> 京都府 | <input type="radio"/> 長崎県 |
| <input type="radio"/> 埼玉県 | <input type="radio"/> 大阪府 | <input type="radio"/> 熊本県 |
| <input type="radio"/> 千葉県 | <input type="radio"/> 兵庫県 | <input type="radio"/> 大分県 |
| <input type="radio"/> 東京都 | <input type="radio"/> 奈良県 | <input type="radio"/> 宮崎県 |
| <input type="radio"/> 神奈川県 | <input type="radio"/> 和歌山県 | <input type="radio"/> 鹿児島県 |
| <input type="radio"/> 新潟県 | <input type="radio"/> 鳥取県 | <input type="radio"/> 沖縄県 |
| <input type="radio"/> 富山県 | <input type="radio"/> 島根県 | <input type="radio"/> 海外 |

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■現在の働き方(就業形態)についておたずねします。

Q1 あなたの現在の働き方(就業形態)は、次のどれにあたりますか。

(回答は1つ)

※「契約社員」とは給与や期間など個別の雇用(労働)契約を結んで働く社員を指します。

※「業務委託・フリーランス」とは雇用関係がなく、特定の取り決めに基づき仕事の依頼を受ける働き方を指します。

- 正社員・正職員
- 契約社員・嘱託
- フリーター (社会人アルバイト)
- パートタイマー
- 派遣
- 業務委託・フリーランス

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■現在の勤務先(会社・団体等)のことについておたずねします。

現在派遣で働いている方は、この調査の質問において、次の4つの言葉を以下のように考えてご回答ください。

- 「現在の勤務先」とは 派遣先の会社・団体ではなく、登録している派遣会社のことです。
- 「退職」というのは、そのとき登録していた派遣会社の仕事(登録契約)が終わり、次の仕事につかないことです。同じ派遣会社から異なった会社・団体へ派遣された場合は退職に含まれません。以前に派遣以外で働いていたときは、雇用されていた勤務先を辞めたことをさします。
- 「転職」とは、登録する派遣会社を変わること、あるいは派遣以外の働き方に変えることで、同じ派遣会社から異なった会社・団体へ派遣されることは、転職に含まれません。
- 「前の勤務先」とは、2014年9月25日～31日の期間以前に、
1)現在登録している派遣会社とは別の派遣会社で派遣社員として働いていた場合は、その派遣会社のことです。
2)正社員・正職員、契約社員・嘱託、パートタイマー、フリーター、など、派遣以外で働いていた場合は、その勤務先のことです。

Q2 あなたが現在の勤務先に入社したのはいつですか。またそのときは何歳でしたか。

(回答は半角数字で入力)

西暦 年 月 で、 その当時は 歳

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q2であなたに以下のようにお答えです。

現在の勤務先に入社したのは
Q2の回答内容を表示

間違いがなければ「次のページ」ボタンを押してください。
訂正がある場合は「戻る」ボタンを押して再度ご入力ください。

戻る

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q3 現在の勤務先の業種は何ですか。あてはまるものを1つだけお選びください。

(回答は1つ)

※業種が複数にまたがる場合は、主な方をお選びください。

※選択肢は大分類毎に表示され、細かく67個に分類されています。

あなたの職業にもっとも近いものを1つ選択し、画面下部の「次のページ」ボタンを押してお進みください。

- | | | | | |
|-----------------|---------|--------------|----------|-------------|
| ■ 農林漁業 | ■ 鉱業 | ■ 建設業 | ■ 製造業 | ■ 電気機械器具製造業 |
| ■ 電気・ガス・熱供給・水道業 | ■ 情報通信業 | ■ 運輸業 | ■ 卸売・小売業 | ■ 飲食料品小売業 |
| ■ 金融・保険業 | ■ 不動産業 | ■ 飲食店、宿泊業 | ■ 医療・福祉 | ■ 教育・学習支援 |
| ■ サービス業 | ■ 公務 | ■ 他に分類されないもの | | |

農林漁業

- 農林漁業

鉱業

- 鉱業

建設業

- 総合工事業
- 設備工事業
- 職別工事業(大工、とび、左官、石工など)

製造業

- 食料品製造業
- ゴム、革、窯業・土石製品製造業
- 繊維工業、衣服・繊維製品製造業
- 鉄鋼業
- 木材・木製品、家具、紙・パルプ
- 非鉄金属製造業
- 印刷・同関連業
- 金属製品製造業
- 化学工業、石油・石炭製品、プラスチック製品製造業
- 一般機械器具製造業

電気機械器具製造業

- 総合電機
- 半導体・電子・電気部品
- 重電・産業用電気機器
- その他の電気機械器具製造業
- コンピュータ・通信機器・OA機器関連
- 自動車・鉄道・航空機等製造、同部品製造
- 家電・AV機器
- 精密機械器具製造業
- ゲーム・アミューズメント機器
- その他の製造業

電気・ガス・熱供給・水道業

- 電気・ガス・熱供給・水道業

情報通信業

- 放送業
- インターネット付随サービス業
- 通信業(電気通信業、信書送達業など)
- 映像・音声・文字情報制作業
(映画・ビデオ・テレビ番組レコード・ラジオ番組制作業、新聞業、出版業)
- 情報サービス・調査業
(ソフトウェア業、情報処理業、コンピュータ修理など)

運輸業

- 鉄道、道路旅客運送業
- 旅行業および運輸に付帯するサービス業
- 道路貨物運送業
- その他の運輸業
- 倉庫業

卸売・小売業

- 卸売業
- 織物・衣服・身の回り品小売業
- 百貨店、ディスカウントストア

飲食料品小売業

- スーパー・ストア
- その他の飲食料品小売業
- コンビニエンスストア
- その他の小売業

金融・保険業

- 銀行・信託業
- 証券業、商品先物取引業
- 信金、信用組合業
- 保険業
- 貸金業、投資業等非預金信用機関
- その他金融

不動産業

- 不動産業

飲食店、宿泊業

- 飲食店
- 旅館、ホテル、レジャー

医療・福祉

- 医療業(病院、歯科診療所など)
- 社会保険、社会福祉
(保育所、託児所、訪問介護など)

教育・学習支援

- 教育(小・中・高等学校、短大、大学
専修学校、各種学校、その他教育機関)

医療・福祉

- 医療業(病院、歯科診療所など)
- 社会保険、社会福祉
(保育所、託児所、訪問介護など)

教育・学習支援

- 教育(小・中・高等学校、短大、大学
専修学校、各種学校、その他教育機関)

サービス業

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 郵便局(郵便事業のみ) <input type="radio"/> ※郵便貯金は銀行信託業、郵便保険は保険業、信書送達業は通信業 <input type="radio"/> 理美容、エステ、クリーニング、浴場 <input type="radio"/> 駐車場業 <input type="radio"/> その他の生活関連サービス業
(家事サービス、写真、冠婚葬祭など) <input type="radio"/> 自動車整備業 | <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 物品賃貸業
(ビデオ、事務機器・自動車のレンタル・リース など) <input type="radio"/> 広告代理業 <input type="radio"/> 専門サービス業
(法律事務所、税務事務所、デザイン業、広告制作業、コンサルタントなど) <input type="radio"/> その他の事業サービス業
(消毒、ビルメンテナンス、職業紹介、清掃事業) <input type="radio"/> その他のサービス業
(機械等修理業、共同組合、廃棄物処理業、学術研究機関、宗教、経済団体など) |
|--|--|

公務

- 公務

他に分類されないもの

- 他に分類されないもの

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻るできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q4 現在の勤務先の従業員数(常用雇用のアルバイト・パートを含む人数)は会社全体でどれくらいですか。

(回答は1つ)

<input type="radio"/> 4人以下	<input type="radio"/> 300~499人
<input type="radio"/> 5~9人	<input type="radio"/> 500~999人
<input type="radio"/> 10~19人	<input type="radio"/> 1000~1999人
<input type="radio"/> 20~29人	<input type="radio"/> 2000~4999人
<input type="radio"/> 30~49人	<input type="radio"/> 5000人以上
<input type="radio"/> 50~99人	<input type="radio"/> 公務(官公庁)
<input type="radio"/> 100~299人	

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻るできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q5 現在の勤務先の所在地はどちらですか。

(回答は1つ)

<input type="radio"/> 北海道	<input type="radio"/> 石川県	<input type="radio"/> 岡山県
<input type="radio"/> 青森県	<input type="radio"/> 福井県	<input type="radio"/> 広島県
<input type="radio"/> 岩手県	<input type="radio"/> 山梨県	<input type="radio"/> 山口県
<input type="radio"/> 宮城県	<input type="radio"/> 長野県	<input type="radio"/> 徳島県
<input type="radio"/> 秋田県	<input type="radio"/> 岐阜県	<input type="radio"/> 香川県
<input type="radio"/> 山形県	<input type="radio"/> 静岡県	<input type="radio"/> 愛媛県
<input type="radio"/> 福島県	<input type="radio"/> 愛知県	<input type="radio"/> 高知県
<input type="radio"/> 茨城県	<input type="radio"/> 三重県	<input type="radio"/> 福岡県
<input type="radio"/> 栃木県	<input type="radio"/> 滋賀県	<input type="radio"/> 佐賀県
<input type="radio"/> 群馬県	<input type="radio"/> 京都府	<input type="radio"/> 長崎県
<input type="radio"/> 埼玉県	<input type="radio"/> 大阪府	<input type="radio"/> 熊本県
<input type="radio"/> 千葉県	<input type="radio"/> 兵庫県	<input type="radio"/> 大分県
<input type="radio"/> 東京都	<input type="radio"/> 奈良県	<input type="radio"/> 宮崎県
<input type="radio"/> 神奈川県	<input type="radio"/> 和歌山県	<input type="radio"/> 鹿児島県
<input type="radio"/> 新潟県	<input type="radio"/> 鳥取県	<input type="radio"/> 沖縄県
<input type="radio"/> 富山県	<input type="radio"/> 島根県	<input type="radio"/> 海外

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻るできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q6 1週間のうち、何日働いていますか。また1週間の平均的労働時間は全部でどれくらいですか。

(回答は半角数字で入力)

※ 残業時間(サービス残業も含む)はカウントし、通勤時間、食事時間、休憩時間は除きます。

(例:毎日9時から17時まで、休憩1時間で週5日働くと、7×5=35時間です)

※ アルバイトを2箇所で行っているなど、複数の勤務先で仕事をしている場合は、合計の時間でお答えください。

※ 「1」日、「1」時間以上でお答えください。

週に 日 週に およそ合計で 時間

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q6であなたは以下のようにお答えです。

1週間の平均的労働時間

Q6の回答内容を表示

間違いがなければ「次のページ」ボタンを押してください。
訂正がある場合は「戻る」ボタンを押して再度ご入力ください。

戻る

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q7 あなたの残業手当は、会社の制度としてどのように支給されることになっていますか。

(回答は1つ)

※ 深夜残業と休日出勤は除いてお答えください。

- 残業手当は固定で支給されることになっている（裁量労働制が適用されている）
- 残業手当は超過勤務に応じて100%支給されることになっている
- 残業手当は上限が決まっていて、その範囲内で支給されることになっている
- 分からない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

SQ7 あなたは、残業代を申請しない労働(いわゆるサービス残業)をしていますか。

(回答は1つ)

- はい
- いいえ

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q8 あなたの時間あたりの働きぶりをお聞きます。時間あたりで考えて、現在のあなたの働きかたの密度はどれくらいですか。

(回答は1つ)

- これ以上は働けないほど働いている
- 精一杯働いている
- 少しはゆとりを持って働いている
- かなりゆとりを持って働いている

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることはできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q9A 現在のあなたの職種は何ですか。あてはまるものを1つお選びください。

(回答は1つ)

※ 職種が複数にまたがる場合は、主な方をお選びください。
 ※ 選択肢は大分類毎に表示され、細かく208個に分類されています。
 あなたの職業にもっとも近いものを1つ選択し、画面下部の「次のページ」ボタンを押してお進みください。

■ サービス職 ■ 保安・警備職 ■ 農林漁業関連職 ■ 運輸・通信関連職 ■ 生産工程・労務職
 ■ 管理職 ■ 事務・営業・販売職 ■ 専門職・技術職 ■ 分類不能の職業

サービス職

家政婦、ホームヘルパーなどのサービス職業

- 家政婦、ホームヘルパーなど

生活衛生サービス職業

- 理容師・美容師
- その他生活衛生サービス職業従事者
- エステティシャン

飲食物調理職業

- 和食調理師、すし職人
- 中華料理調理師
- 洋食調理師
- その他調理職、バーテンダー

接客・給仕職業

- ウエイター・ウエイトレス
- 添乗員・ツアーコンダクター
- ホールスタッフ(バチンコ・遊技場)
- その他接客・給仕職業
- 宿泊施設接客

施設管理サービス

- ビル・駐車場・マンション・ボイラー等管理

その他のサービス職業従事者

- 自動車・バイク整備士
- サービススタッフ(ガソリンスタンド)
- 機械保守・メンテナンス
- 他に分類されないサービス職業従事者

保安・警備職

- 自衛官、警察官、警備、守衛など

農林漁業関連職

- 農耕作業、造園職、養畜作業、林業・漁業作業

運輸・通信関連職

ドライバー

- ドライバー(バン、ワゴン)
- ドライバー(2輪)
- ドライバー(トラック)
- ドライバー(タクシー・ハイヤー)
- ドライバー(バス)

その他の運輸・通信従事者

- 鉄道運転従事者、電話交換手、郵便配達など

生産工程・労務職

製造・生産工程作業

- 金属・機械・電気・自動車の製造・生産工程・修理作業
- 建設作業(建設作業員)
- 食料品・日用品の製造・生産工程作業
- 建設作業(設備工事作業員)
- 建設作業(土木作業員)
- その他の建設・土木・採掘作業

その他の労務作業

- 清掃、配達、倉庫作業、その他

管理職

会社・団体等管理職

- 管理職(技術系)
- 管理職(サービス職)
- 管理職(事務職)
- スーパーバイザー
- 管理職(営業職)
- 店長
- 管理職(専門職)
- 管理職(その他)
- 管理職(販売職)

事務・営業・販売職**一般事務職**

- 総務
- 人事
- 労務
- 法務
- 広報
- 経営企画
- 営業事務
- 管理事務
- 国際業務
- 貿易事務
- 業務
- 在庫管理
- 商品管理
- 仕入
- 購買・資材
- 医療事務
- 秘書
- 受付
- 電話交換手
- 手配業務
- スタッフコーディネーター
- その他一般事務系職

企画・販促系事務職

- 企画
- 販売促進
- マーケティング
- 宣伝
- 調査
- 商品開発
- 商品企画
- バイヤー
- マーチャンダイザー
- 店舗開発
- その他企画・販促系事務職

財務・会計・経理

- 財務、会計、経理

営業従事者

- 不動産営業
- 食品営業
- 医薬品営業
- 化学品営業
- 機械営業
- 電気・電子機器営業
- 通信営業
- システム営業
- 銀行営業
- 保険営業
- 証券営業
- 旅行営業
- その他の営業

OA機器オペレーター

- キーボードチャック、パソコン、オペレーターなど

商品販売従事者

- 販売店員、レジ、ファッションアドバイザー、商品訪問販売従事者など

仲介・代理・仲立ち

- 不動産仲介・売買人、保険代理人など

その他の事務従事者

- その他の事務従事者

専門職・技術職**農林水産業・食品技術者**

- 研究開発(化学)
- 研究開発(バイオテクノロジー)
- 農業技術者
- 畜産技術者
- 林業技術者
- 水産技術者
- 食品技術者
- その他の農林水産業・食品技術者

機械・電気技術者

- 研究開発(電気・電子)
- 研究開発(光関連技術)
- 研究開発(通信技術)
- 研究開発(半導体)
- 研究開発(機械)
- 研究開発(メカトロニクス)
- アナログ回路設計
- デジタル回路設計
- 電気回路設計
- 半導体開発設計
- 機械設計
- メカトロ設計
- 電気通信技術者
- 制御設計
- 金型設計
- その他電気・電子・機械設計関連職

鉱工業技術者(機械・電気技術者を除く)

- 化学技術者
- その他の鉱工業技術者

建築・土木・測量技術者

- 技術開発(建築・土木・プラント・設備)
- 建築設計
- 土木設計
- 意匠設計
- 構造解析
- プラント設計
- 空調設備設計
- 電気設備設計
- CAD設計
- その他設計
- 建築施工管理・現場監督・工事監理者
- 土木施工管理・現場監督・工事監理者
- 設備施工管理・現場監督・工事管理者
- その他の建築・土木・測量技術者

ソフトウェア・インターネット関連技術者

- 研究開発(コンピュータ)
- 開発職(ソフトウェア関連職)
- データベース系SE
- 制御系SE
- ネットワークエンジニア
- プログラマ
- CGプログラマ
- サポートエンジニア(ソフト)
- システムアナリスト
- システムコンサルタント
- 通信・ネットワークエンジニア
- 画像処理
- CADオペレーター
- WEB系プログラマ
- WEB系アプリケーション開発
- サーバ管理エンジニア
- ローカライゼーションエンジニア
- ITコンサルタント
- セキュリティ技術者
- ERPコンサルタント
- その他ソフトウェア関連技術職

インターネット関連専門職

- ECコンサルタント
- WEBマスター
- WEBプロデューサー・ディレクター
- WEBデザイナー
- セキュリティコンサルタント
- WEBコンテンツ企画・制作
- eビジネスプロデューサー・インキュベーター
- その他のインターネット関連専門職

その他の技術者

- その他研究開発
- カスタマーエンジニア
- サポートエンジニア(ハード)
- フィールドエンジニア
- プロセスエンジニア
- 特許技術
- 工業デザイナー
- その他エンジニア

医師、歯科医師、獣医師、薬剤師

- 薬剤師
- 医師、歯科医師、獣医師

保健婦、助産婦、看護婦

- 保健婦・助産婦
- 看護師・看護婦・看護助手

医療技術者

- 診療放射線技師、臨床検査技師、歯科技工士、理学療法士など

その他の保健医療専門職

- 栄養士、マッサージ、カウンセラーなど

社会福祉専門職

- 福祉相談指導専門員、保母、介護士など

法務関連専門職

- 弁護士、弁理士、司法書士など

経営関連専門職

- 公認会計士、税理士など

文芸家、記者、編集者

- 文芸家、記者、編集者、校正者など

美術家、写真家、デザイナー

- キャラクター、CGデザイナー
- グラフィックデザイナー・エディトリアルデザイナー
- ファッション関連デザイナー
- 写真家
- その他美術家

コンサルタント

- 経営・会計コンサルタントなど

金融関連専門職

- ディーラー
- ファンドマネージャー
- アクチュアリ
- ファイナンシャルプランナー
- 証券アナリスト
- その他金融関連専門職

ゲーム関連専門職

- ゲームプロデューサー
- ゲームプログラマー
- ゲームディレクター
- その他ゲーム関連専門職
- ゲームデザイナー

広告・出版・マスコミ専門職

- コピーライター
- 広告・出版・マスコミプロデューサー・ディレクター
- イラストレーター
- その他広告・出版・マスコミ専門職

印刷関連専門職

- DTPオペレーター
- その他印刷関連専門職(製版、印刷技術、DTPオペレーター)
- 印刷機オペレーター

ファッション・インテリア関連専門職

- ファッション関連職(タンナー、スタイリスト、ソーイングスタッフなど)
- インテリア関連職

その他の専門的・技術的職業

- 講師、インストラクター、通訳など

分類不能の職業

- 分類不能の職業

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q9B その職種での経験年数はどれくらいですか。

(回答は半角数字で入力)

※1か月未満の場合は「0」年「1」か月とご記入ください。

※3年の場合は「3」年「0」か月とご記入ください。

※複数の会社で同じ職種についている場合は合計の年数をお答えください。

現在の職種の経験期間 年 か月

次のページ

0% 100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることはできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q10 あなたの直属の上司について、それぞれどの程度あてはまるか、お答えください。現在派遣で働いている方は、この質問については派遣先の現在の職場についてお答えください。

(回答は1つ)

1 / 19

上司は上の人から言われた仕事をそのまま部下におろす

常にあてはまる	どちらかというど、あてはまる	どちらともいえない	どちらかというど、あてはまらない	全くあてはまらない
---------	----------------	-----------	------------------	-----------

次のページ

※以下の質問について、上記の形で聴取

(1) 上司は上の人から言われた仕事をそのまま部下におろす
(2) 部下に任せる仕事は、目的・背景から説明する
(3) 部下に思いつきの仕事を指示する
(4) 指示された仕事が、結果として無駄になる
(5) 部下が仕事に着手した早い段階で進捗を確認する
(6) 部下の仕事が大きなミスにつながる前に、介入する
(7) 部下に任せた仕事が、部下の手を離れた後どうなったか、結果に対するフィードバックがある
(8) 些末なことにこだわり仕事量を増やす
(9) 仕事の納期を明確にする
(10) 任せた仕事にどれくらいの時間がかかったか確認する
(11) 上司は仕事のやり方を教えてくれる
(12) 上司は仕事の優先順位を明確につける
(13) 上司は相談すると、すぐに結論を出してくれる
(14) 残業が特に多いメンバーについては、業務の見直しをしている
(15) 部下の仕事状況を把握している
(16) 残業を前提に仕事を指示する
(17) 上司との信頼関係は構築できている
(18) 上司は自分の成長を支援してくれる
(19) 上司自身もプレイヤーとして担当業務をもつ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻るできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q11	直属の上司が管理する(あなたの所属する)部署の以下の実態について、他部署と比較してどのように認識していますか。もっともあてはまるものを1つお選びください。 現在派遣で働いている方は、この質問については派遣先の現在の職場についてお答えください。
------------	--

(回答は1つ)

1/5

部署の業績がよい				
全くその通りである	どちらかといえばその通りである	どちらともいえない	どちらかといえばそうではない	全くそうではない

[次のページ](#)

※以下の質問について、上記の形で聴取

(1) 部署の業績がよい
(2) 部署のメンバーの仕事に対する意欲が高い
(3) 部署のメンバーはいい仕事をしているという他部署からの評判が高い
(4) 部署のメンバーは残業が少ない
(5) 部署のメンバーの離職率は低い

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻るできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■現在の仕事についておたずねします。

Q12	あなたは、自分の専門領域が明確になっていますか。
------------	--------------------------

(回答は1つ)

はい

いいえ

[次のページ](#)

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻るできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

「明確になっている」とお答えの方におたずねします。

SQ12	あなたは現在、その専門領域の仕事をしていますか。
-------------	--------------------------

(回答は1つ)

はい

いいえ

[次のページ](#)

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q13 あなたの仕事や職場の特徴について、それぞれあてはまるものをお選びください。

(回答は1つ)

1 / 11

締切や納期にゆとりがない

- | | | | | |
|-----------|-----------------|-----------|----------------|----------|
| 全くその通りである | どちらかといえばその通りである | どちらともいえない | どちらかといえばそうではない | 全くそうではない |
|-----------|-----------------|-----------|----------------|----------|

次のページ

※以下の質問について、上記の形で聴取

- | |
|-----------------------------------|
| (1) 締切や納期にゆとりがない |
| (2) 突発的な業務が生じることが頻繁にある |
| (3) 反響がある、数値で確認できるなど、仕事の成果が把握しやすい |
| (4) 自分が果たすべき役割が明確である |
| (5) ある専門領域に特化した仕事である |
| (6) 前例やマニュアルに従う定型的な仕事が多い |
| (7) 仕事の手順や進め方の自由度が高い |
| (8) 今の職場に自分の仕事を代わりにできる人がいる |
| (9) 仲間と協力して進める仕事が多い |
| (10) 高い成果を上げるためには働く時間を惜しまない職場である |
| (11) 無理をしても顧客からの要望に応える職場である |

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q14 あなたは、現在の仕事を通じて、「成長している」という実感を、どの程度持っていますか。

(回答は1つ)

強く 持っている	持っている	どちらとも いえない	あまり 持っていない	持っていない
-------------	-------	---------------	---------------	--------

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q15 あなたは現在の仕事(分野)において、どの段階まで達していると、上司や顧客から思われていますか。下記の段階のうち、最も近いと思われるものをお選びください。

(回答は1つ)

- 第1段階** 仕事の基本ややり方を習得しつつある段階
- 第2段階** ひとり立ちしている段階
- 第3段階** 常に、期待以上の成果をあげ続けている段階
- 第4段階** 自分ならではの知識や技術、やり方が高く評価されている段階
- 第5段階** その道をきわめ、第一人者として社会的に広く認められている段階

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

「第4段階」あるいは「第5段階」とお答えの方におたずねします。

第1段階 仕事の基本ややり方を習得しつつある段階
第2段階 ひとり立ちしている段階
第3段階 常に、期待以上の成果をあげ続けている段階
第4段階 自分ならではの知識や技術、やり方が高く評価されている段階
第5段階 その道をきわめ、第一人者として社会的に広く認められている段階

SQ15 第3段階から、第4段階、第5段階と上がることで、会社からの評価は変わりましたか。

(回答は1つ)

- 役職、給料ともに上がった
- 役職が上がった(給料は変わらない)
- 給料が上がった(役職は変わらない)
- どちらも変わらなかった

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q16 現在の仕事(分野)の経験年数はどれくらいですか。

(回答は半角数字で入力)

※ 1か月未満の場合は「0」年「1」か月とご記入ください。

※ 3年の場合は「3」年「0」か月とご記入ください。

※ 複数の会社で同じ仕事をしていた場合は合計の年数をお答えください。

現在の仕事(分野)の経験期間 年 か月

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q17 あなたが日達達成や問題解決の責任を負っている職務の大きさはどのレベルですか。下記の段階のうち、最も近いと思われるものをお選びください。

(回答は1つ)

【A】 日常業務の改善レベル	【B】 経営の変革レベル
-------------------	-----------------

Aに近い	やや Aに近い	どちらとも いえない	やや Bに近い	Bに近い
------	------------	---------------	------------	------

SQ17_1 あなたは、その職務をどの程度のレベルでできていると思いますか。下記の段階のうち、最も近いと思われるものをお選びください。

(回答は1つ)

とても 高いレベルで できている	高いレベルで できている	できている	どちらとも いえない	あまり できていない
------------------------	-----------------	-------	---------------	---------------

SQ17_2 あなたはその職務において、社内外のどの範囲の人たちと関わっていますか。下記の段階のうち、最も近いと思われるものをお選びください。

(回答は1つ)

【A】 特定の部署の少数の人と	【B】 様々な部門の多くの人々や 社外の多様な人たちと
--------------------	-----------------------------------

Aに近い	やや Aに近い	どちらとも いえない	やや Bに近い	Bに近い
------	------------	---------------	------------	------

SQ17_3 あなたは、その人たちと関わるにあたり、関係者との信頼関係をつくり、良い影響を与えることが、どの程度できていると思いますか。下記の段階のうち、最も近いと思われるものをお選びください。

(回答は1つ)

とても 高いレベルで できている	高いレベルで できている	できている	どちらとも いえない	あまり できていない
------------------------	-----------------	-------	---------------	---------------

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■退職・転職経験についておたずねします。

Q18 あなたはこれまでに退職(会社や団体を辞めること)をしたことがありますか。

(回答は1つ)

退職したことがある

退職したことはない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q19 あなたがこれまでに、退職(会社や団体を辞めること)をした回数をお答えください。

(回答は半角数字で入力)

回

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■退職経験のある方におたずねします。
退職経験が複数回ある場合、一番最近の退職のことをお答えください。

Q20 前の勤務先から現在の勤務先に転職してよかったですか。

(回答は1つ)

とてもよかったです	よかったです	どちらともいえない	よかったですとは思えない	全くよかったですとは思えない
-----------	--------	-----------	--------------	----------------

次のページ

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

引き続き、退職経験のある方におたずねします。
 退職経験が複数回ある方の場合、一番最近の退職のことをお答えください。

Q21	あなたが前の勤務先(現在の勤務先の、直前の勤務先)を退職した理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。 また、あなたが前の勤務先を退職した最も重要な理由は何ですか。
------------	---

1 / 2

退職した理由
(回答はいくつでも)

<会社都合>

- 契約期間の満了
- 定年
- 会社の倒産・事業所閉鎖
- 早期退職・退職勧奨
- 解雇

<自己都合>

- 賃金への不満
- 労働条件や勤務地への不満
- 人間関係への不満
- 仕事内容への不満
- 会社の将来性や雇用安定性への不安
- 自分のけがや病気
- 結婚
- 出産・育児
- 介護のため
- 独立のため
- 進学や資格取得のため

<その他>

- その他

次を表示

次のページ

※以下の質問について、上記の形で聴取

(1) 退職した理由(回答はいくつでも)
(2) 最も重要な理由(回答は1つだけ)

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

引き続き、退職経験のある方におたずねします。

Q22 あなたは現在の転職先をどのように見つけましたか。もっとも影響力の大きかったものを1つお選びください。

(回答は1つ)

- 会社に直接問い合わせ
- 学校（学生課）の窓口や掲示板
- 家族や知人の紹介
- ハローワーク（職業安定所）
- 民間人材紹介会社
- 人材派遣会社
- 有料の求人情報誌
- 無料の求人情報誌やタウン誌
- 新聞の求人広告
- 折り込みチラシ
- インターネットの転職情報サイト
- SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）
- その他 具体的に：

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q23 前の会社を退職するのと、現在の会社への転職が決まるのとは、どちらが先でしたか。

(回答は1つ)

- 前の会社を退職した後に、現在の転職先に内定した
- 前の会社の退職と現在の転職先内定はほぼ同時だった
- 現在の転職先に内定してから、前の会社を退職した

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q24 現在の勤務先を探すまでのあなたの活動を教えてください。現在の勤務先も対象として教えてください。

(回答は半角数字で入力)

- A 転職先として検討した会社(団体等を含む)の数 社
- B 応募した会社(団体等を含む)の数 社
- C 面接や試験など選考をうけた会社(団体等を含む)の数 社
- D 内定をもらった会社(団体等を含む)の数 社

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■転職前の働き方や勤務先についておたずねします。

Q25 前の勤務先への入社年月と退職年月を教えてください。

(回答は半角数字で入力)

※前の勤務先とは、現在の勤務先の、直前の勤務先を指します。

入社年月→ 西暦 年 月

退職年月→ 西暦 年 月

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q25であなたは以下のようにお答えです。

Q25の回答内容を表示

間違いがなければ「次のページ」ボタンを押してください。
訂正がある場合は「戻る」ボタンを押して再度ご入力ください。

戻る

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■転職前の働き方や勤務先についておたずねします。

Q26 前の勤務先の業種は何ですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

(回答は1つ)

※業種が複数にまたがる場合は、主な方をお選びください。

※選択肢は大分類毎に表示され、細かく67個に分類されています。

あなたの職業にもっとも近いものを1つ選択し、画面下部の「次のページ」ボタンを押してお進みください。

※前の勤務先とは、現在の勤務先の、直前の勤務先を指します。

- | | | | | |
|-----------------|---------|--------------|----------|-------------|
| ■ 農林漁業 | ■ 鉱業 | ■ 建設業 | ■ 製造業 | ■ 電気機械器具製造業 |
| ■ 電気・ガス・熱供給・水道業 | ■ 情報通信業 | ■ 運輸業 | ■ 卸売・小売業 | ■ 飲食品小売業 |
| ■ 金融・保険業 | ■ 不動産業 | ■ 飲食店・宿泊業 | ■ 医療・福祉 | ■ 教育・学習支援 |
| ■ サービス業 | ■ 公務 | ■ 他に分類されないもの | | |

選択肢はQ3と同様

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■転職前の働き方や勤務先についておたずねします。

Q27 前の勤務先の従業員数(常用雇用のアルバイト・パートを含む人数)は会社全体でどれくらいですか。

(回答は1つ)

※「派遣」だった方は、派遣先の会社・団体ではなく、登録していた派遣会社のことをお答えください。

※前の勤務先とは、現在の勤務先の、直前の勤務先を指します。

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| <input type="radio"/> 4人以下 | <input type="radio"/> 300~499人 |
| <input type="radio"/> 5~9人 | <input type="radio"/> 500~999人 |
| <input type="radio"/> 10~19人 | <input type="radio"/> 1000~1999人 |
| <input type="radio"/> 20~29人 | <input type="radio"/> 2000~4999人 |
| <input type="radio"/> 30~49人 | <input type="radio"/> 5000人以上 |
| <input type="radio"/> 50~99人 | <input type="radio"/> 公務(官公庁) |
| <input type="radio"/> 100~299人 | |

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■転職前の働き方や勤務先についておたずねします。

Q28 前の勤務先の所在地はどこでしたか。

(回答は1つ)

※前の勤務先とは、現在の勤務先の、直前の勤務先を指します。

- | | | |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| <input type="radio"/> 北海道 | <input type="radio"/> 石川県 | <input type="radio"/> 岡山県 |
| <input type="radio"/> 青森県 | <input type="radio"/> 福井県 | <input type="radio"/> 広島県 |
| <input type="radio"/> 岩手県 | <input type="radio"/> 山梨県 | <input type="radio"/> 山口県 |
| <input type="radio"/> 宮城県 | <input type="radio"/> 長野県 | <input type="radio"/> 徳島県 |
| <input type="radio"/> 秋田県 | <input type="radio"/> 岐阜県 | <input type="radio"/> 香川県 |
| <input type="radio"/> 山形県 | <input type="radio"/> 静岡県 | <input type="radio"/> 愛媛県 |
| <input type="radio"/> 福島県 | <input type="radio"/> 愛知県 | <input type="radio"/> 高知県 |
| <input type="radio"/> 茨城県 | <input type="radio"/> 三重県 | <input type="radio"/> 福岡県 |
| <input type="radio"/> 栃木県 | <input type="radio"/> 滋賀県 | <input type="radio"/> 佐賀県 |
| <input type="radio"/> 群馬県 | <input type="radio"/> 京都府 | <input type="radio"/> 長崎県 |
| <input type="radio"/> 埼玉県 | <input type="radio"/> 大阪府 | <input type="radio"/> 熊本県 |
| <input type="radio"/> 千葉県 | <input type="radio"/> 兵庫県 | <input type="radio"/> 大分県 |
| <input type="radio"/> 東京都 | <input type="radio"/> 奈良県 | <input type="radio"/> 宮崎県 |
| <input type="radio"/> 神奈川県 | <input type="radio"/> 和歌山県 | <input type="radio"/> 鹿児島県 |
| <input type="radio"/> 新潟県 | <input type="radio"/> 鳥取県 | <input type="radio"/> 沖縄県 |
| <input type="radio"/> 富山県 | <input type="radio"/> 島根県 | <input type="radio"/> 海外 |

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■転職前の働き方や勤務先についておたずねします。

Q29	前の勤務先での、1週間の労働日数は何日でしたか。 また、1週間の平均的労働時間はどれくらいでしたか。 残業時間(サービス残業も含む)はカウントし、通勤時間、食事時間、休憩時間は除きます。
------------	---

(回答は半角数字で入力)
 ※ 残業時間(サービス残業も含む)はカウントし、通勤時間、食事時間、休憩時間は除きます。
 (例: 毎日9時から17時まで、休憩1時間で週5日働くと、7×5=35時間です)
 ※ アルバイトを2箇所で行っているなど、複数の勤務先で仕事をしていた場合は、合計の時間でお答えください。
 ※ 「1」日、「1」時間以上でお答えください。
 ※ 前の勤務先とは、現在の勤務先の、直前の勤務先を指します。

週に 日 週におよそ合計で 時間

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q29であなたは以下のようにお答えです。

1週間の平均的労働時間

Q29の回答内容を表示

間違いがなければ「次のページ」ボタンを押してください。
 訂正がある場合は「戻る」ボタンを押して再度ご入力ください。

戻る

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■転職前の働き方や勤務先についておたずねします。

Q30A	前の勤務先での職種は何でしたか。あてはまるものを1つお選びください。
-------------	------------------------------------

(回答は1つ)
 ※ 職種が複数にまたがる場合は、主な方をお選びください。
 ※ 選択肢は大分類毎に表示され、細かく208個に分類されています。
 あなたの職業にもっとも近いものを1つ選択し、画面下部の「次のページ」ボタンを押してお進みください。
 ※ 前の勤務先とは、現在の勤務先の、直前の勤務先を指します。

- サービス職 保安・警備職 農林漁業関連職 運輸・通信関連職 生産工程・労務職
 管理職 事務・営業・販売職 専門職・技術職 分類不能の職業

選択肢はQ9Aと同様

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q30B 現在の勤務先に転職した直後の職種は何でしたか。あてはまるものを1つお選びください。

(回答は1つ)

※ 職種が複数にまたがる場合は、主な方をお選びください。
 ※ 選択肢は大分類毎に表示され、細かく208個に分類されています。
 あなたの職業にもっとも近いものを1つ選択し、画面下部の「次のページ」ボタンを押してお進みください。

- サービス職 保安・警備職 農林漁業関連職 運輸・通信関連職 生産工程・労務職
 管理職 事務・営業・販売職 専門職・技術職 分類不能の職業

選択肢はQ9Aと同様

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■ 転職前の働き方や勤務先についておたずねします。

Q31 前の勤務先の働き方は次のどれにあてはまりますか。

(回答は1つ)

※ 前の勤務先とは、現在の勤務先の、直前の勤務先を指します。

- 正社員・正職員
- 契約社員・嘱託
- フリーター（社会人アルバイト）
- パートタイマー
- 派遣
- 業務委託・フリーランス
- 自営業・家族従業
- その他 具体的に：

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■ 転職前の働き方や勤務先についておたずねします。

Q32 前の勤務先での役職は次のどれにあてはまりますか。名称が異なる場合も、職階(職位)が近いと思われるものをお選びください。

(回答は1つ)

※ ここでの「専門職」は、営業、技術、事務など、すべての分野を含みます。
 ※ 出向中だった場合は本社の役職でお答えください。
 ※ 前の勤務先とは、現在の勤務先の、直前の勤務先を指します。

- 経営・役員層
- 部長クラスの管理職
- 部長クラスと同待遇の専門職
- 課長クラスの管理職
- 課長クラスと同待遇の専門職
- 係長・主任クラスの管理職
- 係長・主任クラスと同待遇の専門職
- 役職にはついていない

次のページ

0% 100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q33 転職前の年収(税込み)と、転職後1年目、2年目の年収(税込み)をそれぞれお答えください。
また、現在の勤務先への転職活動を始めたときに希望していた年収もお答えください。

(回答は半角数字で入力)

※転職後2年未満の方は、見込みをお答えください。

※転職後1年目は、試用期間や在籍期間が年収額に大きな影響を与えるため、転職後2年目の年収もおたずねします。

※臨時収入、副収入は除いてお答えください。

A 転職前年収 万円

B 転職後1年目年収 万円

C 転職後2年目年収 万円

D 転職活動を始めたときの希望年収 万円

次のページ

0% 100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■ 転職前の働き方や勤務先についておたずねします。

Q34 前の勤務先の、あなたの仕事や職場の特徴について、それぞれ、あてはまるものをお選びください。

(回答は1つ)

※前の勤務先とは、現在の勤務先の、直前の勤務先を指します。

1/11

締切や納期にゆとりがない

- | | | | | |
|---------------|---------------------|---------------|--------------------|--------------|
| 全く
その通りである | どちらかといえば
その通りである | どちらとも
いえない | どちらかといえば
そうではない | 全く
そうではない |
|---------------|---------------------|---------------|--------------------|--------------|

次のページ

※以下の質問について、上記の形で聴取

- | |
|-----------------------------------|
| (1) 締切や納期にゆとりがない |
| (2) 突発的な業務が生じることが頻繁にある |
| (3) 反響がある、数値で確認できるなど、仕事の成果が把握しやすい |
| (4) 自分が果たすべき役割が明確である |
| (5) ある専門領域に特化した仕事である |
| (6) 前例やマニュアルに従う定型的な仕事が多い |
| (7) 仕事の手順や進め方の自由度が高い |
| (8) 当時の職場に自分の仕事を代わりにできる人がいる |
| (9) 仲間と協力して進める仕事が多い |
| (10) 高い成果を上げるためには働く時間を惜しまない職場である |
| (11) 無理をしても顧客からの要望に応える職場である |

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることはできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■**転職前の働き方や勤務先についておたずねします。**

Q35 前の勤務先について、あなたの考えに近いものをそれぞれお選びください。

(回答は1つ)

※前の勤務先とは、現在の勤務先の、直前の勤務先を指します。

1/8

転職前、私の興味は当時の職業（職種）と合っていた

強く
そう思う

そう思う

どちらとも
いえない

そう思わない

全く
そう思わない

次のページ

※以下の質問について、上記の形で聴取

- | |
|---|
| (1) 転職前、私の興味は当時の職業（職種）と合っていた |
| (2) 転職前、私は当時の職務（仕事）にふさわしい技能（スキル）や能力を持っていた |
| (3) 転職前、私の個人的な価値観と会社の価値観や文化は合っていた |
| (4) 転職前、私は一緒に働く人たちと上手くやっていた |
| (5) 転職前、私の性格と上司の性格は合っていた |
| (6) 転職前、私は社内で評価されていた |
| (7) 転職前、職場に満足していた |
| (8) 転職前、仕事に満足していた |

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることはできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■**初めて就職したときのことについておたずねします。**

Q36 あなたが、社会人として働き始める前に卒業した学校について、お答えください。その学校へ入学した時期と卒業した時期はいつですか。

(回答は半角数字で入力)

※社会人になってから大学院などへ行った方は、社会人になる前に卒業した学校についてお答えください。

入学年月→ 西暦 年 月 当時 歳

卒業年月→ 西暦 年 月 当時 歳

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q36であなたに以下のようにお答えです。

社会人として働き始める前に卒業した学校の

入学年月→	Q36の回答内容を表示
卒業年月→	

間違いがなければ「次のページ」ボタンを押してください。
訂正がある場合は「戻る」ボタンを押して再度ご入力ください。

戻る

次のページ

SQ36_1 そのとき卒業したのは、以下のうち、どれですか。

(回答は1つ)

- 中学校
- 高等学校
- 専修各種学校
- 短期大学
- 高等工業専門学校
- 大学
- 大学院

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

SQ36_2 そのとき卒業した学校の所在地を教えてください。

(回答は1つ)

- | | | |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| <input type="radio"/> 北海道 | <input type="radio"/> 石川県 | <input type="radio"/> 岡山県 |
| <input type="radio"/> 青森県 | <input type="radio"/> 福井県 | <input type="radio"/> 広島県 |
| <input type="radio"/> 岩手県 | <input type="radio"/> 山梨県 | <input type="radio"/> 山口県 |
| <input type="radio"/> 宮城県 | <input type="radio"/> 長野県 | <input type="radio"/> 徳島県 |
| <input type="radio"/> 秋田県 | <input type="radio"/> 岐阜県 | <input type="radio"/> 香川県 |
| <input type="radio"/> 山形県 | <input type="radio"/> 静岡県 | <input type="radio"/> 愛媛県 |
| <input type="radio"/> 福島県 | <input type="radio"/> 愛知県 | <input type="radio"/> 高知県 |
| <input type="radio"/> 茨城県 | <input type="radio"/> 三重県 | <input type="radio"/> 福岡県 |
| <input type="radio"/> 栃木県 | <input type="radio"/> 滋賀県 | <input type="radio"/> 佐賀県 |
| <input type="radio"/> 群馬県 | <input type="radio"/> 京都府 | <input type="radio"/> 長崎県 |
| <input type="radio"/> 埼玉県 | <input type="radio"/> 大阪府 | <input type="radio"/> 熊本県 |
| <input type="radio"/> 千葉県 | <input type="radio"/> 兵庫県 | <input type="radio"/> 大分県 |
| <input type="radio"/> 東京都 | <input type="radio"/> 奈良県 | <input type="radio"/> 宮崎県 |
| <input type="radio"/> 神奈川県 | <input type="radio"/> 和歌山県 | <input type="radio"/> 鹿児島県 |
| <input type="radio"/> 新潟県 | <input type="radio"/> 鳥取県 | <input type="radio"/> 沖縄県 |
| <input type="radio"/> 富山県 | <input type="radio"/> 島根県 | <input type="radio"/> 海外 |

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q37 学校を卒業後、初めて就職したときの働きかた(就業形態)は、次のどれでしたか。

(回答は1つ)

- 正社員・正職員
- 契約社員・嘱託
- フリーター(社会人アルバイト)
- パートタイマー
- 派遣
- 業務委託・フリーランス
- 自営業・家族従業
- その他 具体的に：

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q38 在学中に、卒業後の最初の就職先は決まっていたか。

(回答は1つ)

- 決まっていた
- 決まっていなかった(卒業後に決まった)

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q39 学校を卒業後、初めて就職した勤務先の入社年月と退職年月を教えてください。

(回答は半角数字で入力)

入社年月→ 西暦 年 月

退職年月→ 西暦 年 月

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q39であなたは以下のようにお答えです。

初めて就職した勤務先の

入社年月→	Q39の回答内容を表示
退職年月→	

間違いがなければ「次のページ」ボタンを押してください。
訂正がある場合は「戻る」ボタンを押して再度ご入力ください。

戻る

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることはできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q40 あなたが学校を卒業後、初めて就職した勤務先を退職した理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。また、最も重要な理由は何ですか。

1/2

退職した理由
(回答はいくつでも)

<会社都合>

契約期間の満了

定年

会社の倒産・事業所閉鎖

早期退職・退職勧奨

解雇

<自己都合>

賃金への不満

労働条件や勤務地への不満

人間関係への不満

仕事内容への不満

会社の将来性や雇用安定性への不安

自分のけがや病気

結婚

出産・育児

介護のため

独立のため

進学や資格取得のため

<その他>

その他

次を表示

次のページ

※以下の質問について、上記の形で聴取

- | |
|----------------------|
| (1) 退職した理由(回答はいくつでも) |
| (2) 最も重要な理由(回答は1つだけ) |

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q41 学校を卒業後、初めて就職した勤務先の業種は何ですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

(回答は1つ)

※業種が複数にまたがる場合は、主な方をお選びください。

※選択肢は大分類毎に表示され、細かく67個に分類されています。

あなたの職業にもっとも近いものを1つ選択し、画面下部の「次のページ」ボタンを押してお進みください。

- | | | | | |
|--|--------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 農林漁業 | <input type="checkbox"/> 鉱業 | <input type="checkbox"/> 建設業 | <input type="checkbox"/> 製造業 | <input type="checkbox"/> 電気機械器具製造業 |
| <input type="checkbox"/> 電気・ガス・熱供給・水道業 | <input type="checkbox"/> 情報通信業 | <input type="checkbox"/> 運輸業 | <input type="checkbox"/> 卸売・小売業 | <input type="checkbox"/> 飲食料品小売業 |
| <input type="checkbox"/> 金融・保険業 | <input type="checkbox"/> 不動産業 | <input type="checkbox"/> 飲食店・宿泊業 | <input type="checkbox"/> 医療・福祉 | <input type="checkbox"/> 教育・学習支援 |
| <input type="checkbox"/> サービス業 | <input type="checkbox"/> 公務 | <input type="checkbox"/> 他に分類されないもの | | |

選択肢はQ3と同様

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q42 学校を卒業後、初めて就職した勤務先の従業員数(常用雇用のアルバイト・パートを含む人数)は会社全体でどれくらいでしたか。

(回答は1つ)

※「派遣」だった方は、派遣先の会社・団体ではなく、登録していた派遣会社のことをお答えください。

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| <input type="radio"/> 4人以下 | <input type="radio"/> 300~499人 |
| <input type="radio"/> 5~9人 | <input type="radio"/> 500~999人 |
| <input type="radio"/> 10~19人 | <input type="radio"/> 1000~1999人 |
| <input type="radio"/> 20~29人 | <input type="radio"/> 2000~4999人 |
| <input type="radio"/> 30~49人 | <input type="radio"/> 5000人以上 |
| <input type="radio"/> 50~99人 | <input type="radio"/> 公務(官公庁) |
| <input type="radio"/> 100~299人 | |

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q43 学校を卒業後、最初の仕事の職種をお知らせください。

(回答は1つ)

※ 職種が複数にまたがる場合は、主な方をお選びください。
 ※ 選択肢は大分類毎に表示され、細かく208個に分類されています。
 あなたの職業にもっとも近いものを1つ選択し、画面下部の「次のページ」ボタンを押してお進みください。

- サービス職 保安・警備職 農林漁業関連職 運輸・通信関連職 生産工程・労務職
 管理職 事務・営業・販売職 専門職・技術職 分類不能の職業

選択肢はQ9Aと同様

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■現在のあなたの役職についておたずねします。

Q44 現在の勤務先での役職は次のどれにあてはまりますか。名称が異なる場合も、職階(職位)が近いと思われるものをお選びください。

(回答は1つ)

※ ここでの「専門職」は、営業、技術、事務など、すべての分野を含みます。
 ※ 出向中の場合は本社の役職でお答えください。

- 部長クラスの管理職
- 部長クラスと同待遇の専門職
- 課長クラスの管理職
- 課長クラスと同待遇の専門職
- 係長・主任クラスの管理職
- 係長・主任クラスと同待遇の専門職
- 役職にはついていない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■現在、正社員・正職員の方におたずねします。

Q45 あなたの職場では、定期的な人事異動がありますか。ある場合は、原則としておよそ何年ごとに異動するのか、最も一般的な年数を教えてください。

(回答は1つ)

- ある → およそ 年ごと
- ない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q46 あなたは入社してから現在までに、異動を何回経験しましたか。

(回答は半角数字で入力)

※ここでの異動とは、職種の変更、もしくは部をまったく配置転換や出向を対象とします。
 ※また、主務における異動を対象とし、兼務や部門横断プロジェクトへの参加等の付随的・一時的な経験は対象としません。
 ※組織の合併や分割、名称変更のみの場合も異動の数に含まれません。

回

SQ46_1 そのうち、あなたが「課長クラス」に昇進する前までの期間では、人事異動を何回経験しましたか。

(回答は半角数字で入力)

回

SQ46_2 そのうち、あなたが「課長クラス」から「部長クラス」に昇進する前までの期間では、人事異動を何回経験しましたか。

(回答は半角数字で入力)

回

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q47 今まで経験した異動は、あなたのキャリア形成にプラスに作用していると思いますか。

(回答は1つ)

- | | | | | |
|-------------|------|---------------|--------|--------------|
| とても
そう思う | そう思う | どちらとも
いえない | そう思わない | 全く
そう思わない |
|-------------|------|---------------|--------|--------------|

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

SQ47 異動によってあなたが得られたと思うものをすべてお選びください。

(回答はいくつでも)

- 人脈が広がった
- 会社全体の業務が理解できた
- 自分の専門性が深まった
- 多様な人とやっっていく力が身についた
- 学習習慣が身についた
- 上記いずれもあてはまらない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q48 あなたが、「課長クラス」に昇進したのは入社何年目でしたか。

(回答は半角数字で入力)

入社 年目

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q49 あなたが、「部長クラス」に昇進したのは入社何年目でしたか。

(回答は半角数字で入力)

入社 年目

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q50 直属の部下はいますか。いる場合は、雇用形態それぞれに対して、何人いるか教えてください。

(回答は半角数字で入力)

正社員 人

契約社員、パート・アルバイト 人

派遣社員など他社に籍のある従業員 人

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■ここからは、これからの働き方や転職についておたずねします。

Q51 あなたは今後、転職(会社や団体が変わること)することを考えていますか。

(回答は1つ)

- 現在転職したいと考えており、転職活動をしている
- 現在転職したいと考えているが、転職活動はしていない
- いずれ転職したいと思っている
- 転職するつもりはない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q52 あなたが転職するとしたら、どのようなことがネック(障害)になると思いますか。また、その中でもっともネック(障害)となると思うものもお選びください。

1 / 2

転職時にネック(障害)となると思うもの
(回答はいくつでも)

- 収入的側面
(給料額、退職金、ローン等の問題)
- 世間体・社会的信用の側面
- 募集求人年齢制限の側面
- スキル・能力的側面
- 人脈の喪失
- 手段・方法がわからない
- その他

次を表示

次のページ

※以下の質問について、上記の形で聴取

- (1) 転職時にネック(障害)となると思うもの(回答はいくつでも)
- (2) もっともネック(障害)となると思うもの(回答は1つ)
※「その他」のみお選びになった方は、そのまま「次を表示」を押してお進みください。

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q53 あなたは以下のことをしてみたいと思いますか。

(回答は1つ)

1/3

出身地への転職：Uターン転職

- すぐにでもしたい
- いつかはしたい
- したいとは思わない

次を表示

次のページ

※以下の質問について、上記の形で聴取

- | |
|----------------------------|
| (1) 出身地への転職：Uターン転職 |
| (2) 地方への転職(出身地は除く)：Iターン転職 |
| (3) 独立(会社をつくる、フリーランスになるなど) |

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q54 あなたは現在、以下の勤務をしていますか。最も近いものをお選びください。

(回答は1つ)

- グローバル勤務
(海外拠点での勤務や国内における海外ビジネスを担当する業務。給与は国内勤務より高い。)
- 国内勤務
(日本国内の勤務で必要に応じて転勤や職種変更がある従来の総合職)
- 地域勤務
(通勤可能な範囲の地域限定で、仕事も特定領域に特化。給与は国内勤務より低い。)
- あてはまるものはない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

SQ54 あなたは今後、以下の勤務をしてみたいと思いますか。

(回答は横の行ごとに1つずつ)

※現在すでにしている方は、今後の意向をお答えください。

	はい	いいえ
A: グローバル勤務 (海外拠点での勤務や国内における海外ビジネスを担当する業務。給与は国内勤務より高い。)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
B: 国内勤務 (日本国内の勤務で必要に応じて転勤や職種変更がある従来の総合職)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
C: 地域勤務 (通勤可能な範囲の地域限定で、仕事も特定領域に特化。給与は国内勤務より低い。)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q55 あなたは生活のために、何歳まで働かざるを得ないと思いますか。

(回答は1つ)

- いつでも辞めることが可能
- 60歳まで
- 61～65歳まで
- 66～70歳まで
- 生涯現役にならざるを得ない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q56 あなたは現在の会社に定年まで勤めると思いますか。

(回答は1つ)

- 定年まで勤める
- 定年前に辞める
- 定年制はない
- 分からない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻る事ができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

「定年前に辞める」とお答えの方におたずねします。

SQ56_1 定年前に辞める理由は何ですか。最もあてはまるものを1つだけお選びください。

(回答は1つ)

- 職業生活から引退したいから
- 別の企業に転職したいから
- 自分で事業や商売を始めるから
- 次の仕事の準備をするから
- 今の会社では定年まで勤められる状況ではないから
- その他 具体的に：

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻る事ができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

「別の企業に転職したいから」とお答えの方におたずねします。

SQ56_2 なぜ定年前に転職したいのですか。最もあてはまるものを1つだけお選びください。

(回答は1つ)

- 今までとは全く別の仕事をしたいから
- 今の仕事よりは楽な仕事をしたいから
- より長く働けるようにしたいから
- 知り合いなどから誘われているから
- その他 具体的に：

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻る事ができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■ 定年についておたずねします。

Q57 あなたには定年の経験がありますか。

(回答は1つ)

- ある
- ない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

「定年の経験がある」とお答えの方におたずねします。

SQ57_1 定年は何歳でしたか。

(回答は半角数字で入力)

歳

SQ57_2 定年後はどうなりましたか。

(回答は1つ)

- 元の会社で再雇用・雇用延長
- 関連会社へ出向・転籍
- 元の会社の斡旋で転職
- 自分で探した会社に再就職
- 自営業を開業（家業の手伝いを含む）
- 失業、就職活動
- その他 具体的に：

SQ57_3 定年後の状況はあなたの想定通りでしたか。

(回答は1つ)

- 想定通りだった
- 想定通りではなかった

SQ57_4 現在の仕事は、定年前の職務経験を直接活かすことのできる仕事ですか。

(回答は1つ)

- はい
- いいえ

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q58 あなたは以下のことを定年前にしましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

(回答はいくつでも)

- すでに持っている業務知識・技能に関連した新しい知識・技能を身につける
- 定年後のキャリア（仕事内容や収入、ポジション）の計画を立てる
- 定年後の仕事に役に立つ人脈を作る
- 定年後の仕事や生活について家族と相談する
- 上記いずれもしていない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻る事ができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■あなたの能力・学習行動についておたずねします。

Q59 仕事を進めるにあたって、あなたは以下の能力をどの程度持っていると思いますか。それぞれの項目について最も近いものを1つずつお選びください。

(回答は横の行ごとに1つずつ)

	十分持っている	持っている	どちらともいえない	あまり持っていない	持っていない
円満な人間関係を築く力	<input type="radio"/>				
人と協力しながら物事に取り組む力	<input type="radio"/>				
目標に向かって人や集団をひっぱる力	<input type="radio"/>				
自分の感情をコントロールする力	<input type="radio"/>				
やる気を維持する力	<input type="radio"/>				
良い行動を習慣として続けられる力	<input type="radio"/>				
情報を収集・分析して、課題を発見する力	<input type="radio"/>				
課題解決のための計画を立案する力	<input type="radio"/>				
行動を起こし、最後までやりきる力	<input type="radio"/>				
文章の構成や要旨を的確に理解する力	<input type="radio"/>				
データや数字をすばやく読み取る力	<input type="radio"/>				
論理的に物事を分析・構築する力	<input type="radio"/>				
独自のものの見方や考え方をする力	<input type="radio"/>				
現在の仕事に関する専門的な知識	<input type="radio"/>				
現在の仕事の遂行に必要な技術やノウハウ	<input type="radio"/>				

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻る事ができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q60 ふだん、勤務時間以外に仕事に役立つ学習活動をしていますか。

(回答は1つ)

- している
- していない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻る事ができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

「している」とお答えの方におたずねします。

SQ60 では、あなたはふだん、学習活動にどれくらいの時間を使っていますか。1週間あたりの時間をお答えください。

(回答は半角数字で入力)
 ※10分の場合は「0」時間「10」分とご記入ください。
 ※3時間の場合は「3」時間「0」分とご記入ください。

平均 時間 分

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■あなたの仕事に対する意識についておたずねします。

Q61 AとBを比較して、あなたの望ましいと思う働き方にあてはまるものをお選びください。

(回答は1つ)

1/5

【A】 限られた時間内で成果をだす	【B】 高い成果を出すために働く時間を惜しまない
-----------------------------	------------------------------------

Aに近い	ややAに近い	ややBに近い	Bに近い
------	--------	--------	------

次のページ

※以下の質問について、上記の形で聴取

(1) 【A】限られた時間内で成果をだす	【B】高い成果を出すために働く時間を惜しまない
(2) 【A】成長できないが、負荷は軽い	【B】負荷は重いだが、成長できる
(3) 【A】仕事の進め方に明確な型があり、それにのっとる	【B】仕事の進め方は自分で考える
(4) 【A】特定分野を深める	【B】さまざまな分野の技術やスキルを身に着ける
(5) 【A】昇進する	【B】昇進にはこだわらない

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q62 以下の項目について、あなたの考えに近いものをそれぞれお選びください。

(回答は1つ)

1/9

私の興味は今の職業（職種）と合っている

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そう思わない	全く そう思わない
------------	------	---------------	--------	--------------

次のページ

※以下の質問について、上記の形で聴取

(1) 私の興味は今の職業（職種）と合っている
(2) 私はこの職務（仕事）にふさわしい技能（スキル）や能力を持っている
(3) 私の個人的な価値観と会社の価値観や文化は合っている
(4) 私は一緒に働く人たちと上手くやっている
(5) 私の性格と上司の性格は合っている
(6) 現在の職場では通用しない「転職前の仕事の進め方」を転職後もひきずった
(7) 私は社内で評価されている
(8) 今の職場に満足している
(9) 今の仕事に満足している

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■あなたご自身のことについておたずねします。

F5 現在、配偶者の方がいらっしゃいますか。

〈回答は1つ〉

配偶者がいる

配偶者はいない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F5で「配偶者がいる」とお答えの方におたずねします。

SF5_1 ご結婚されたのは何歳のときですか。初婚の年齢を教えてください。

〈回答は半角数字で入力〉

歳

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F6 昨年のあなたの年収(2013年4月～2014年3月末までの税込みの実績)をお教えてください。

〈回答は半角数字で入力〉

※臨時収入、副収入は除いてお答えください。

あなたの年収 万円

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

SF6_1 昨年のあなたの配偶者の年収(2013年4月～2014年3月末までの税込みの実績)をお教えてください。

〈回答は半角数字で入力〉

※臨時収入、副収入は除いてお答えください。

配偶者の年収 万円

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F7 あなたは現在、年取が一定額を超えないように調整していますか。

〈回答は1つ〉

- 調整している
- 調整していない
- 分からない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F8 お子様はいらっしゃいますか。

〈回答は1つ〉

- いる
- いない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F8で「子どもがいる」とお答えの方におたずねします。

SF8_1 お子様の人数をご記入ください。

〈回答は半角数字で入力〉

人

SF8_2 お子様の年齢を教えてください。(複数のお子様がいいらっしゃる場合は、一番上のお子様についてお答えください)

〈回答は半角数字で入力〉

歳

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

SF8_3 第1子を出産する前と出産後で、あなたの働きかたは変わりましたか。それぞれについてあてはまるものをお選びください。

(回答は1つずつ)

<勤務先>

- 転職した
- 転職していない（出産前と同じ勤務先）

<仕事内容>

- 変わった
- 変わっていない（出産前と同じ仕事内容）

<就業形態>

- 正社員から非正社員に変わった
- 非正社員から正社員に変わった
- 変わらない（正社員のまま）
- 変わらない（非正社員のまま）

<勤務時間の制度>

- フルタイム勤務から短時間勤務に変わった
- 短時間勤務からフルタイム勤務に変わった
- 変わらない（フルタイム勤務のまま）
- 変わらない（短時間勤務のまま）

<労働時間:残業含む>

- 減った
- 変わらない
- 増えた

<仕事の効率>

- 上がった
- 変わらない
- 下がった

<あなたに対する会社の期待>

- 増えた
- 変わらない
- 減った

[次のページ](#)

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F9 現在同居しているのはどなたですか。

(回答はいくつでも)

- 1人暮らし
- 父（義理の父を含む）
- 母（義理の母を含む）
- 兄弟姉妹
- 祖父または祖母
- 配偶者（内縁関係を含む）
- 子供
- 友人・ルームメイト・同僚
- その他の人

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F10 あなたの最終卒業校は次のどれですか。

(回答は1つ)

- 中学校
- 高等学校
- 専修各種学校
- 短期大学
- 高等工業専門学校
- 大学
- 大学院

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F10で最終卒業校は「大学」、または「大学院」とお答えの方におたずねします。

SF10_1 卒業された学部(研究科)は次のどれですか。

(回答は1つ)

- 人文科学 (文学、史学、哲学、心理学、教育学など)
- 社会科学 (経済学、経営学、商学、法学、政治学など)
- 自然科学 (工学、理学、農学、情報工学など)
- 医学、薬学
- 建築
- 芸術 (音楽、美術)
- 福祉
- その他

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

SF10_2 大学へはどのような方法で入学しましたか。

※複数の大学に入学された方は、一番はじめに入学したときのことをお答えください。

(回答は1つ)

- 一般入試
- 推薦入試 (AO入試)
- 推薦入試 (AO入試以外)
- 内部進学
- その他

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F11 あなたは、学校を中退した経験がありますか。

(回答は1つ)

- 中退した経験がある
- 中退した経験がない

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F11で「中退した経験がある」とお答えの方におたずねします。

SF11 学校を中退した経験がある場合はどれにあてはまりますか。

(回答は1つ)

 高等学校中退 専修各種学校中退 短期大学中退 高等工業専門学校中退 大学中退 大学院中退

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F12 あなたの通っていた高校は進学する人と就職する人、どちらの方が多かったですか。

(回答は1つ)

 進学する人のほうが多かった 就職する人のほうが多かった 進学と就職が半分ずつ

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F13 現在の仕事をするにあたり、高校時代の以下の経験はどの程度役に立っていますか。高校時代に経験のない方は、「経験していない」をお選びください。

(回答は横の行ごとにつずつ)

	非常に役に立っている	役に立っている	あまり役に立っていない	役に立っていない	経験していない
各教科の授業	<input type="radio"/>				
文化祭や体育祭など学校行事の経験	<input type="radio"/>				
就業体験(職場体験やインターンシップなど)	<input type="radio"/>				
生徒会活動	<input type="radio"/>				
部活動の経験(運動部・団体競技)	<input type="radio"/>				
部活動の経験(運動部・個人競技)	<input type="radio"/>				
部活動の経験(運動部以外・団体の活動)	<input type="radio"/>				
部活動の経験(運動部以外・個人で活動)	<input type="radio"/>				
アルバイト経験	<input type="radio"/>				

次のページ

0%  100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F14 中学3年生の頃、あなたの学業の成績は、学年全体の中でどれくらいでしたか。

(回答は1つ)

上のほう	やや上のほう	真ん中あたり	やや下のほう	下のほう
------	--------	--------	--------	------

次のページ

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

F15 あなたのご両親の最終卒業校は、次のうちどれですか。

(回答は1つ)

1 / 2

父

- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 専修各種学校
- 短期大学
- 高等工業専門学校
- 大学
- 大学院
- 分からない

次を表示

※以下の質問について、上記の形で聴取

(1) 父
(2) 母